

ブルキナファソ国
コモエ県における住民参加型持続的森
林管理計画プロジェクト
終了時評価報告書

平成25年1月
(2013年)

独立行政法人国際協力機構
地球環境部

環境
JR
12-106

ブルキナファソ国
コモエ県における住民参加型持続的森
林管理計画プロジェクト
終了時評価報告書

平成25年1月
(2013年)

独立行政法人国際協力機構
地球環境部

目 次

目 次

地 図

写 真

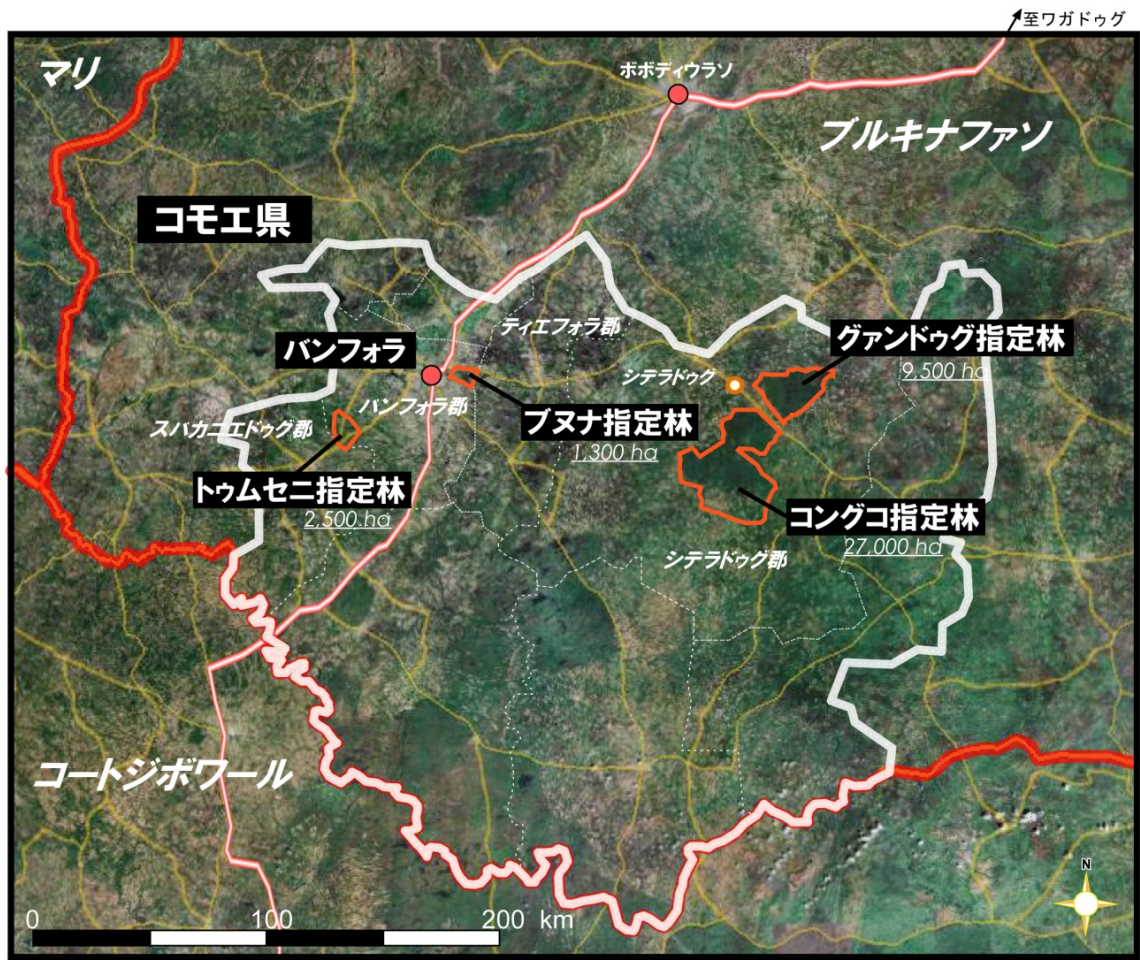
略語表

評価調査結果要約表（和・英）

第1章 終了時評価調査の概要	1
1-1 終了時評価調査の経緯・目的	1
1-2 調査団の構成	2
1-3 調査日程	2
1-4 主要面談者（敬称略・順不同）	3
1-5 対象プロジェクトの概要	4
第2章 終了時評価調査の方法	5
2-1 終了時評価調査のプロセス	5
2-2 データ収集方法	5
2-3 評価項目	6
2-3-1 プロジェクトの実績の検証	6
2-3-2 実施プロセスの検証	6
2-3-3 評価基準	6
第3章 プロジェクトの実績	7
3-1 投入実績	7
3-1-1 日本側の投入実績	7
3-1-2 ブルキナファソ側の投入実績	7
3-2 活動の実績	7
3-3 アウトプットの実績	8
3-4 プロジェクト目標の達成状況	14
3-5 実施プロセスの検証	15
第4章 評価5項目	17
4-1 妥当性	17
4-2 有効性	18
4-3 効率性	18
4-4 インパクト	19
4-5 自立発展性	20
第5章 結論	22
第6章 提言	23
第7章 教訓	25

付属資料.....	25
1. PDM (Version 3.0).....	27
2. PO.....	31
3. 合同評価報告書 (仏語版).....	35
4. 活動実績.....	93
5. 面談記録.....	105

地 図



プロジェクト対象地域

写 真



森林局長へのヒアリング



合同評価調査団による協議会



トゥムセニ GGF が生産したシアバター石殻



コングコ GGF による苗木生産活動



日本側評価団による外務省訪問



ミニッツ署名（左：次官、右：団長）

略 語 表

略 語	正式名称	和 名
CNAT	Commission Nationale d'Aménagement du Territoire	国土整備国家委員会
C/P	Counterpart (Contre-partie)	カウンターパート
CPAT	Commissions Provinciales d'Aménagement du Territoire	国土整備県委員会
CRAT	Commissions Régional d'Aménagement du Territoire	国土整備州委員会
DGCN	Direction générale de conservation de la nature	自然保全総局
DGFF	Direction générale des forêts et de la faune	森林・野生動物総局
DiFor	Direction des Forêts	森林局
DREDD	Direction régionale de l'environnement et du development durable	環境・持続開発州局
DPEDD	Direction provinciale de l'environnement et du development durable	環境・持続開発県局
DSES	Direction du suivi écologique et des statistiques	生態モニタリング統計局
ENEF	Ecole Nationale des Eaux et Forêts	国立水森林学校
FCFA	Francs Communauté Française de l'Afrique	フラン・セーファー (ブルキナファソ通貨)
GGF	Groupement de Gestion Forestière	森林管理住民組織
JCC	Joint Coordination Committee	合同調整委員会
JICA	Agence Japonaise de Coopération Internationale	独立行政法人国際協力機構
MEDD	Ministère de l'environnement et du development durable	環境・持続開発省
NC	National Coordinator (Coordonnateur National)	ナショナルコーディネーター
NGO	Non-Governmental Organizations	非政府組織
NTFP	Non Timber Forest Products	非木材林産物
PAF	Plan d'Aménagement Forestier	森林整備計画
PAG	Plan d'Aménagement et de Gestion	森林整備事業計画
PAGREN	Le Projet d'Appui à la Gestion Participative des Ressources Naturelles dans la Région des Hauts-Bassins	参加型自然資源管理支援計画
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PFN	Politique Forestière Nationale	国家森林政策
PNAF	Plan National d'Attribution des Bandes de Fréquences Radioélectriques	森林整備国家計画
PO	Plan of Operation	活動計画表
UGGF	Union des Groupement de Gestion Forestière	森林管理住民組織連合

評価調査結果要約表

1. 案件の概要	
国名：ブルキナファソ	案件名：コモエ県における住民参加型持続的森林管理計画（PROJET DE GESTION PARTICIPATIVE ET DURABLE DES FORÊTS CLASSÉES DANS LA PROVINCE DE LA COMOË）
分野：自然環境保全	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：地球環境部森林・自然環境グループ森林・自然環境保全第二課	協力金額（評価時点）計約 3.8 億円
協力期間：2007年7月1日～ 2012年6月30日 (R/D 締結日：2007年6月7日)	先方関係機関： 環境・持続開発省 (MEDD) 自然保全総局 (DGCN) 森林局 (DiFor)
	日本側協力機関：農林水産省 林野庁 一般社団法人日本森林技術協会
	他の関連協力：開発調査「コモエ県森林管理計画調査（2002-2005）」
<p>1-1 協力の背景と概要</p> <p>ブルキナファソ国（以下、「ブルキナファソ」と記す）では、人口増加、焼畑による移動耕作、無計画な森林伐採等により森林面積が著しく減少している。サヘル地域に属する国土の北部では深刻な砂漠化が進んでおり、比較的森林資源が豊かであった南部においても、森林の劣化あるいは消失が著しい。この結果、現在ブルキナファソで豊かな森林として残存するのはほぼ指定林¹のみであり、貴重な森林資源として保全の重要性が増している。</p> <p>このような中、ブルキナファソ政府は、国家森林政策²（Politique Forestière Nationale：PFN）を策定し、同政策に基づき、森林管理を所掌する気候問題省〔現在の環境・持続開発省（Ministère de l'environnement et du développement durable：MEDD）〕を中心とした地域住民による持続可能な森林管理の実施を図ったが、資金及び実施体制に問題があり実施が進まなかった。また、ブルキナファソにおける地方分権化の流れの中、地方行政レベルでの森林管理に関する計画の策定・実施が急務となった。</p> <p>以上の背景の下、ブルキナファソ政府の要請に基づき、JICA は2002年8月から2005年6月まで開発調査「コモエ県森林管理計画調査」を実施し、コモエ県内の5指定林（ブヌナ、トゥムセニ、グァンドゥグ、コングコ、ティダ）について、住民参加型の森林管理計画の策定の方向性とアプローチを提示した。しかし、森林行政機関の職員は森林管理や事業実施の経験がなく、これらを進めるために必要となる知識・技術に乏しかった。このためブルキナファソ政府は、開発調査で提示された住民参加型による持続的な森林管理を実際に推進するための技術協力を要請した。</p> <p>この要請に基づき、JICA は、2007年7月から5年間を協力期間とし、森林管理住民組織（Groupement de Gestion Forestière：GGF）及び住民組織組合（Union des Groupement de Gestion Forestière：UGGF）を通じて、「地域住民による持続的な森林管理を目指した活動が実施されるようになること」を目標とした技術協力プロジェクト「コモエ県における住民参加型持続的森林管理計画³」を開始した。</p>	

¹仏語でForêt Classée。国有もしくは公有林で森林整備事業が行われるべきと指定された地域。現在、同国に指定林は合計64箇所、107万haが指定されている。

²1995年「国家森林政策（PFN）」、1996年「森林整備国家計画」（PNAF）1997年「森林法」

³本プロジェクトの対象地域は、ティダを除く4指定林、ブヌナ（Bounouna 1,300ha）、トゥムセニ（Toumousseni 2,500ha）、グァンドゥグ（Gouandougou 9,500ha）、コングコ（Kongouko 27,000ha）。（ブヌナ、トゥムセニ、グァンドゥグ、コングコ）に限られた。

1-2 協力内容			
(1)	上位目標	プロジェクト対象となった4指定林において地域住民による参加型で持続的な森林管理が実践される	
(2)	プロジェクト目標	対象となる4つの指定林（ブヌナ、トゥムセニ、グァンドゥグ、コングコ）において、GGF及びUGGFを通じて、地域住民による持続的森林管理を目指した活動が行われるようになる	
(3)	アウトプット		
1)		住民が参加型で持続的な森林管理を行えるよう、中央・地方の森林行政機関の支援能力が向上する。	
2)		対象村落において、GGF及びUGGFの持続的森林管理に関する能力が向上する。	
3)		地域住民の生活状況が改善される。	
4)		対象とする4つの指定林において、森林整備事業計画（Plan d'Aménagement et de Gestion：PAG ⁴ ）が順次策定され、開始される。	
5)		持続的な森林管理を行うために、地方行政機関及びプロジェクトに関係する国の出先機関の関係者（地域関係者）と森林行政機関との協力関係がより深まる。	
1-3 投入の実績（評価時点） 総投入額 4億9,000万円			
日本側：短期専門家派遣 8名 84.29 M/M（2011年12月末日まで）			
本邦研修 4名（2008年1名、2009年2名、2010年1名）			
供与機材 日本調達分 0.67億円（2011年12月末日時点）			
ローカルコスト負担 4億円（2012年1月末日時点）			
ブルキナファソ側：カウンターパート(C/P) 配置 25名			
ローカルコスト負担 125,334,332フラン・セーファー(FCFA)			
（2011年12月末日時点）			
土地施設提供 執務室			
2. 評価調査団の概要			
日本側	総括	池田修一	JICA 地球環境部 森林・自然環境保全担当次長
	協力計画	寺田佐恵子	JICA 地球環境部 森林・自然環境保全第二課職員
	評価分析	山田千晶	ペガサスエンジニアリング株式会社
	通訳	森田俊之	財団法人 日本国際協力センター
ブルキナファソ側	Mr. OUEDRAOGO Lassane	MEDD 次官室付	
	Ms. KAFANDO k Judith	MEDD 調査計画局	
調査期間	2012年1月15日～2012年2月5日		評価種類 終了時評価
3. 評価結果の概要			
3-1 実績の確認			
(1)	アウトプットの達成度		
1)	アウトプット1：達成済み		
	参加型持続的森林管理の研修が地方レベルで4回、中央レベルで11回開催され、森林行政職員の意識及び行動に関して以下の変化が認められた。		
	<ul style="list-style-type: none"> 森林管理方法に関する幅広い知識を得ることにより、積極的にプロジェクト活動（例：植林活動）に参加するようになった。 		

⁴2011年にPAGの名称が森林整備計画（PAF）となった。本報告書ではPAGと統一して記載する。

- モニタリング・評価の研修により得られた知識・経験を内部評価調査等の実地で生かすことができた。
- また、県局長を中心とし、定期的にプロジェクト活動をモニタリングするようになった。
- OJT 研修を通じて、GGF/UGGF に対する森林管理技術研修（例：伐採技術及び野火管理）の副講師を担当したことにより、更に森林管理に関する知識を増やしたいと思うようになった。
- PAG 策定業務に積極的に参加するようになった。

2) アウトプット 2：達成済み

全 27GGF に対し、計画通りに持続的森林管理技術及び組織運営に係る研修が実施され、GGF/UGGF の森林管理能力向上を示す幾つかの例が以下のとおり観察された。

- スンバラ、野火管理、放牧の研修を受講した後、自分達で実践活動を開始するようになった。
- 自らアイデアを出し、プロジェクト活動に積極的に参加するようになった。
- 問題が発現した際に、自分達でその解決法を話し合うようになった。

3) アウトプット 3：達成済み

計画通り活動を実施し、木材林産物として木炭の生産・販売、また非木材林産物(Non Timber Forest Products：NTFP)として養蜂生産・販売、薬用植物販売、シアバター生産・販売を行う GGF が現れ、所得創出につながるようになってきた。GGF は、製品の販売により得た収益の一部を次の生産用の材料費や森林管理活動・グループ運営費に当て、残金を生産者間で分配することになっている。第 3 年次にはすべての GGF の所得創出活動で純利益が認められており、生活状況の改善につながるが見込まれる。

4) アウトプット 4：達成が見込まれる

4 指定林における PAG のドラフトは作成中であり、2012 年 5 月までには策定・承認される予定である。ただし、承認プロセスのために関係者との調整が必要であるため、時間を要すると考えられる。一方、承認前ではあるが、GGF は現行の PAG に則った活動を開始している。

5) アウトプット 5：継続中

地域関係者セミナー及び JCC での意見交換や、地元の複数の民間企業及び団体との連携活動を通じて、森林行政機関と地域関係者による持続的な森林管理を行うための協力関係が深まった。

(2) プロジェクト目標の達成度

4 指定林において、GGF/UGGF を通じて、地域住民による持続的森林管理を目指した活動が行われており、特に生計向上に資する NTFP 活用並びに防火線開設などの野火管理活動が活発である。指標の達成に関しては、森林整備目標に即した森林整備区分が土地利用図へ記載され、伐開工事によりゾーニングの境界が明確になった。また、指定林共通の目標、各指定林の整備目標が設定され、指定林毎に目標に適した活動が実施されている。ただし、整備目標を記した PAG の承認は未了である。

3-2 評価結果の要約

(1) 妥当性：高い

本プロジェクトは、ブルキナファソの政策及び我が国の対ブルキナファソ援助方針と合致している。

ターゲットグループのニーズにおいても、指定林は地域住民の生活基盤であり、GGF/UGGF を通じた持続的に森林管理を行うことを目指すのは適切なアプローチといえる。また、持続的森林管理を行うために各4指定林と村落住民の状況に応じたPAGを策定することは地域住民の生活を守りつつ森林保全を図ることから妥当である。

(2) 有効性：高い

対象4指定林に対し、PAFに基づき、GGF/UGGFを通じた参加型の森林管理活動が着実に実施されると推測され、プロジェクト目標達成の可能性は高い。また、これまでのアウトプット1～5の進捗は、プロジェクト目標の達成に十分に貢献していると判断されるが、特にアウトプット4の主要課題であるPAG策定が完了し、承認手続きが進めばプロジェクト目標の達成度合いはより確実なものになると期待できる。今後のPAG承認プロセスは、カスカード州局長に一任されており、PAG承認のために開催される議会の運営費用を賄うことができれば、承認手続きに関しては滞りなく進むものと予測される。

(3) 効率性：やや高い

ブルキナファソ側、日本側からの投入は計画通りに行われ、質・量ともにアウトプットの達成に寄与した。他機関との連携として、本プロジェクトとの類似性が高い「参加型自然資源管理支援計画 (Le Projet d'Appui à la Gestion Participative des Ressources Naturelles dans la Région des Hauts-Bassins : PAGREN)」との活動が挙げられる。また、活動モニタリングのために地域住民の中から活動モニターを雇用した結果、プロジェクトチームはGGFの変化などの情報を得やすくなった。

(4) インパクト：やや高い

PAG策定は最終段階にあり、その承認プロセスも進行中である。下記のとおり、正のインパクトが多数発現しており、地域住民が継続的に森林管理活動を実践するための環境も整いつつある。GGFと森林官との関係が改善され、収入向上により活動へ意欲的・積極的に参加し、そして製品生産の楽しさや喜びを感じるようになったことにより、3年から5年後に上位目標が達成される可能性は比較的高いと判断できる。

- GGFの収入向上
- プロジェクト活動の波及効果
- 森林官とGGFの関係改善
- GGF/UGGFの意識の変化
- GGF内の連帯感の強化

(5) 自立発展性： 中程度

本プロジェクトは、PAGの規定に基づいてGGF/UGGFが指定林管理を行うというブルキナファソ政府の基本政策と合致しており、政策的な自立発展性は高い。国のレベルでは、ブルキナファソ国内の64指定林におけるPAG策定の動きがMEDDにより促進されている。本プロジェクトにより策定されたPAGが、他の指定林のPAG策定のモデルとなることが期待される。

財政面では、ブルキナファソ側負担のC/P予算執行の遅れや州局及び県局に対する国の事業予算が極めて不足していることを勘案すると、プロジェクト終了後に必要な予算を確保する見通しは極めて厳しい。GGFに関しては、木材・非木材林産物を利用した収入創出活動が今後も安定的に継続し、その収入管理を行うことが可能となれば、財政面では一定の自立性を持つ可能性はあるといえる。国の予算措置に依存するより、GGF/UGGF自体が資金運営する仕組みを構築する方が現実的である。プロジェクト終了時まで、各UGGFが森林整備基金を活用して森林官の森林管理活動に必要な経費も捻出することが可能になれば、森林官は引き続きGGF活動のモニタリングなどの森林管理活動を実施することが可

能になる。

組織的側面においては、住民参加型森林管理を継続的に実施するためには、GGF/UGGFの経済基盤の確立が最も重要であり、そのためにはGGF/UGGFの財政管理を含む組織運営能力の定着が必須となる。

技術面においては、第3年次以降、研修で習得したことを既に実践に移しているGGFもいる。このような技術を習得したいがために、GGF会員になる住民もでてきている。こうしたことから、GGF内における技術や成果物の活用・普及の可能性は十分にある。

組織運営能力や各技術がGGFに確実に定着するまでには時間を要すると予想されるため、活動を継続的にモニタリング・評価する必要がある。

3-3 効果発現に貢献した要因

(1) 計画内容に関すること

- 各研修実施後はGGFメンバーに研修内容が十分根付くよう、定着研修計画が立てられている。

(2) 実施プロセスに関すること

- 関連機関との連携（農業省、動物資源省、自治体、地域行政機関等）
- アシスタントファシリテーター及びモニターの起用
- 森林行政機関（森林官）とGGFの良好な関係の構築

3-4 問題点及び問題を惹起した要因

(1) 計画内容に関すること

- JICAとブルキナファソとの「技術協力プロジェクト」の予算管理・執行方法に対する当初の認識の違い

(2) 実施プロセスに関すること

- 2007年度から2010年度におけるブルキナファソ側のカウンターパート予算の減額及び執行の大幅な遅れ
- 2011年4月の政情悪化に伴う日本人専門家一時国外退避

3-5 結論

評価5項目に関し、妥当性、有効性は満足のいくレベルのものであった。また効率性については、政情悪化に伴う日本人専門家一時国外退避やブルキナファソ側予算の執行の遅れへの対応がプロジェクト活動の進捗に多少の影響をもたらしていたものの、その他の部分で最大限の工夫・努力がなされており満足のいくレベルにある。自立発展性については、組織的側面、財政的側面及び技術的側面のいずれの面からも、不十分な点が見られ、UGGF/GGF及びブルキナファソ森林行政機関関係者のより一層の努力が必要である。インパクトについては、既に対象指定林の現場レベルでは多くのインパクトが発現しているが、対象指定林以外への波及やブルキナファソの政策への反映、プロジェクトに参加していない森林官等への知識普及などのインパクトの発現までは発生しておらず、さらなる工夫が必要である。

3-6 提言

- (1) 協力期間の延長
- (2) PAGの承認及び活用
- (3) マニュアル及びガイドの有効活用
- (4) 4指定林のUGGFの能力強化

- (5) 成果の共有とセミナーの開催
- (6) プロジェクト関係者への終了時評価結果の共有

3-7 教訓

プロジェクトの戦略の共有

本プロジェクトでは、「自然資源を活用して住民の雇用創出と収入の安定化を図りつつ、持続的に森林の保全・管理を目指す」というブルキナファソの森林政策で掲げられているビジョンを、対象4指定林で実践し、その結果を新たに策定する PAF に反映させることをプロジェクトの戦略として実施してきた。一方、ブルキナファソ国内には 64 の指定林があり、本プロジェクトで得られる PAF の策定方法やその活動の実践から得られた教訓は、ブルキナファソ内の他の指定林でも活用されることを期待し、そのための成功モデルの提示を目指したものである。このような技術協力プロジェクトの戦略、その方向性をプロジェクト開始当初に両国間で明確に共有しておくことが、その後の円滑な協力の実施や細かな点での協議・合意、意思疎通、成果の発現及び自立発展性を担保するためには非常に重要である。

資機材投入の効果的活用

本プロジェクトは技術協力であり、社会インフラ整備や資機材供与に重点を置くものではないが、他ドナー国の資金援助プログラムなどと組み合わせ、相乗効果を引き出すことで、技術協力プロジェクトがより効果的かつ自立発展性の高いものとなる。

Evaluation Survey Results Summary Table

1. Outline of project	
Country: Burkina Faso	Project name: Participatory and Sustainable Forest Management in the Province of Comoe (Projet de Gestion Participative et Durable des Forêts Classées dans la Province de la Comoé)
Field: Natural Environment Conservation	Scheme: Technical Cooperation Project
Department in charge: Global Environment Department, Forestry and Natural Environment Group, Forestry and Natural Environment Conservation Section 2	Cooperation amount (at time of evaluation) total: About 380 million yen
Cooperation period:	July 1, 2007 to June 30, 2012 (R/D signed on June 7, 2007)
	Counterparty related agencies: Ministry of the Environment and Sustainable Development (Ministère de l'Environnement et du Développement Durable: MEDD), General Directorate of Nature Conservation (Direction Générale de la Conservation de la Nature: DGCN), Directorate of Forests (Direction des Forêts: DiFor)
	Japan side cooperating agency: Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries– Forestry Agency
	Other related cooperation: Development survey “Comoe Province Forest Management Plan Survey (2002-2005)”
<p>1-1 Background and Outline of Cooperation</p> <p>In Burkina Faso, the forest area is decreasing dramatically due to population growth, shifting cultivation by slash and burn, and unplanned deforestation, etc. Serious desertification is advancing in the north of country, which is in the Sahel region. Even in the south region, where there were relatively rich forest resources, the degradation or loss of forests is remarkable. As a result, the areas rich forests remain today in Burkina Faso are mostly only the Classified Forests,¹ and their conservation as precious forest resources is increasingly important.</p> <p>In this situation, the Burkina Faso government created the National Forest Policy² (Politique Forestière Nationale). Based on this policy, the Burkina Faso government planned to implement sustainable forest management by the local people. The Ministry of the Environment and Sustainable Development (Ministère de l'Environnement et du Développement Durable: MEDD) which has jurisdiction over forest management followed it, but the implementation was not progressed, because there were problems in funding and in the implementation organization. In addition, amidst progress in regional decentralization in Burkina Faso, the formulation and implementation of forest management related plans at the regional government became urgent.</p> <p>Under the background which was described above, based on a request by the Burkina Faso government, JICA conducted a development survey, the “Comoe Province Forest Management Plan Survey,” from August 2002 to June 2005, and proposed the direction and approach for creation of community participation type forest management plans for five Classified Forests in Comoe Province, Bounouna, Toumousséni, Gouandougou, Kongoko, and Dida. However, forest administration agency's staff did not have experience in forest management and implementation of project, and the lack</p>	

¹ In French, Forêt Classée. Areas designated as where forest management projects should be done in government held or publicly held forests. Currently in Burkina Faso, Classified Forests total 64 locations with 1,070,000 ha.

² 1995 “National Forest Policy (PFN),” 1996 “National Forest Development Plan” (PNAF) 1997 “Forest Law”

of necessary knowledge and skills for developing them needed to advance these. Therefore, the Burkina Faso government requested technical cooperation to make actual progress in sustainable forest management by community participation, as proposed in the development survey.

Based on the request, with the 5 years since July 2007 as the cooperation period, JICA began the “Participatory and Sustainable Forest Management in the Province of Comoé”³ technical cooperation project, with the goal of “Enabling implementation of activities for aiming at sustainable forest management by the community” through Forestry Management Groups (Groupement de Gestion Forestière: GGF) and the Union of Forest Management Groups (Union des Groupement de Gestion Forestière: UGGF).”

1-2 Cooperation Details

- (1) Primary Goal Implementation of the sustainable forest management by the community in the four Classified Forests covered by the project
- (2) Project goal In the four Classified Forests covered by the project (Bounouna, Toumoussenni, Gouandougou and Kongoko) through the GGFs and UGGFs, enable activities aimed at sustainable forest management by the community
- (3) Outputs
 - 1) Enhance the capacity of central and regional forest administration agencies for the supporting, to enable community participation type sustainable forest management.
 - 2) In rural areas covered by the project, enhance the capacity for the sustainable forest management of the GGFs and UGGFs.
 - 3) Improve the conditions of livelihood at the community.
 - 4) In the four Classified Forests covered by the project, formulate and start the Plan of Management and Administration (Plan d'Aménagement et de Gestion: PAG)⁴ one after another.
In order to conduct sustainable forest management, deepen cooperation between officials in
 - 5) regional administrative agencies, project related government branch offices (regional officials) and forest administrative agencies.

1-3 Results of Investment (At Time of Evaluation)

Japan side: Short term experts dispatched: 8 experts, 84.29 man-months (until Dec. 31, 2011)
Training in Japan: 4 people (1 person in 2008, 2 people in 2009, 1 person in 2010)
Materials & equipment provided: Japan's procurement portion: 67 million yen (as of Dec. 31, 2011)
Local cost burden: 400 million yen (as of January 31, 2012)

Burkina Faso side: Counterparts assigned: 25 people
Local cost burden: 125 million CFA francs (as of December 31, 2011)
Land and facilities provided Executive Office

³ The areas covered by this project are four Classified Forests (excluding Dida): Bounouna (1,300ha), Toumoussenni (2,500ha), Gouandougou (9,500ha), Kongoko (27,000ha). It is limited to Bounouna, Toumoussenni, Gouandougou and Kongoko.

⁴ In 2011, PAG's name was changed to Forest Management Plan (Plan d'Aménagement Forestier: PAF). This report refers to both as PAG.

2. Evaluation Survey Team Outline			
Japan side	Team Leader	Shuichi Ikeda	JICA Global Environment Dept., Deputy Director General in Charge of Forest and Natural Environment Conservation
	Cooperation Planning	Saeko Terada	JICA Global Environment Dept., Forest and Natural Environment Conservation Section 2
	Evaluation Analysis Interpreter	Chiaki Yamada Toshiyuki Morita	Pegasus Engineering Corporation Japan International Cooperation Center
Burkina Faso side	Mr. OUEDRAOGO Lassane	MEDD: Undersecretary Office Staff	
	Ms. KAFANDO K Judith	MEDD: Survey Planning Bureau	
Survey period	January 15 to February 5, 2012		Evaluation document
Termination Evaluation			
3. Outline of Evaluation Results			
3-1 Confirmation of Results			
(1) Degree of Achievement of Outputs			
1) Output 1: Achieved			
<p>Training for sustainable forest management through Participatory Forestry was held four times at the regional level, and 11 times at the central level. The changes as below were confirmed in the awareness and conduct of forest administration officials.</p> <ul style="list-style-type: none"> • By gaining broad knowledge about forest management methods, they became able to participate actively in the project activities (e.g. tree planting activities). • They became able to utilize their knowledge and experience which gained by training for monitoring and evaluation, for work on site such as in Mid-Term Review. • Moreover, provincial bureau heads mainly, they began to monitor their project activities regularly. • They encouraged them to increase their knowledge of forest management by they served as assistant lecturers in forest management techniques training for GGFs/UGGFs (e.g. logging techniques and wildfire management) through on the job training. • They became able to participate actively in the work for formulation PAG. 			
2) Output 2: Achieved			
<p>All 27 GGFs received training for sustainable forest management techniques and organization management, as planned. Several examples of enhanced forest management abilities of GGFs/UGGFs were observed, as below.</p> <ul style="list-style-type: none"> • After they received training in sumbala, wildfire management and grazing, they became to start their implementation activities on their own. • They came to produce their own ideas, and actively participate in project activities. • When they found problems, they came to discuss, solution methods on their own. 			
3) Output 3: Achieved			
<p>Some GGFs implement activities as planned, conduct the production and sale of charcoal as timber and forest products, and as non-timber forest products (NTFP), conduct the production and sale of apiculture products, medicinal herb sales, and shea butter production and sales appeared, these activities led to income generation. GGFs are allocating part of the earnings, which they obtained by sale of products, to material costs used in their next</p>			

production, forest management activities and group management costs, and they distribute the remaining funds among producers. In the third year, net income was found in income generating activities of all GGFs, which is expected to lead to improvement living conditions.

4) Output 4: Almost achieved

PAGs are making the draft for these four Classified Forests, and plan to formulate and be approved them until May 2012. However, coordination with stakeholders may take some more time, because it is needed for the approval process. On the other hand, although before the approval, GGFs are starting their activities in accordance with the current PAGs.

5) Output 5: Continuing

Each stakeholder deepened cooperative relations through seminars for relevant local people, sharing of views in the JCC, and cooperation activities with multiple local private companies and organizations for conducting sustainable forest management by forest administrative agencies and local related parties.

(2) Project Goals: Degree of Achievement

In the four Classified Forests, through GGFs/UGGFs, there are activities aimed at sustainable forest management by the community; there is especially active utilization of NTFP to contribute to livelihoods improvement and wildfire control activities such as making the firebreaks. Regarding the achievement of indicators, the zoning for forest management in accordance with forest management goals is drawn on land use maps, and the start of logging operation has clarified the zoning borders. In addition, common Classified Forests' goals and each Classified Forest's management goals have been established, and the activities are being implemented which match the goals for each Classified Forest. However, approval of PAGs that states management goals is incomplete.

3-2 Evaluation Results Summary

(1) Validity: High

This project matches Burkina Faso's policies and Japan's policies on assistance for Burkina Faso.

Also for the needs of target groups, Classified Forests are a basis for local people's life, and aiming at conducting sustainable forest management through GGFs/UGGFs may be an appropriate approach. In addition, to conduct sustainable forest management, formulating PAGs, which match to conditions of each Classified Forest and the rural people, is valid from the viewpoint of forest conservation while protecting community life.

(2) Effectiveness: High

For the four Classified Forests, it is conjectured that based on PAF, participatory forest management activities through GGFs/UGGFs will be solidly implemented, and it is very likely that project goals will be achieved. In addition, it is judged that progress on outputs 1 to 5 until now is contributing plenty to the achievement of project goals; especially the main

issue of output 4 is PAG formulation, which is completed, and if the approval procedure progresses, one can expect that the degree of achievement of project goals will become more solid. The future approval process for PAG is entrusted to the Cascades Region Governor, and if he can fund operation costs to hold the meetings for PAG approval, it is predicted that the approval procedure will be preceded smoothly.

(3) Efficiency: Relatively high

Investments from the Burkina Faso side and the Japan side were made as planned, and contributed to the achievement of outputs in both quality and quantity. As cooperation with other agencies, there are activities with the Project Support for Participatory Management for Natural Resources in the Region of Hauts-Bassins (Le Projet d'Appui à la Gestion Participative des Ressources Naturelles dans la Région des Hauts-Bassins: PAGREN) which is very similar to this project. Also, as a result of employing activity monitors from among the community for activity monitoring, the Project Team easily obtained information such as changes in GGFs.

(4) Impact: Relatively high

The formulation PAG is in the final stage, and its approval process is in progress. As below, many positive impacts are appearing, and the environment is steadily being developed for the local people to implement ongoing forest management activities. GGFs have improved the relations with forest officers, and eagerly and actively participated in activities due to higher revenues. They have come to feel the pleasure and joy of making products. Therefore, we can judge that it is relatively likely to achieve the primary goal after three to five years.

- Higher revenues of GGFs
- Ripple effects of project activities
- Improved relations between forest officers and GGFs
- Changed the awareness of GGFs/UGGFs
- Enhancement sense of solidarity in GGFs

(5) Sustainability: Standard

This project matches the Burkina Faso government's basic policy that GGFs/UGGFs conduct Classified Forest management based on PAG stipulations, and development of policy is highly independent. At the national level, movements to formulation PAGs for the 64 Classified Forests in Burkina Faso are being advanced by MEDD. The PAGs, which was formulated by this project, are expected to become models for development PAGs of other Classified Forests.

In fiscal aspects, considering that the Burkina Faso side burden has delays in counterparty budget implementation and is extremely lacking project budgets for the regions and provinces, there are very harsh prospects for obtaining budgets needed after the project ends. Regarding GGFs, if revenue generation activities, which used timber and non-timber forest products, continue stably, and if it is possible to manage their revenues, we can judge there is a possibility of maintaining a certain level of independence in fiscal aspects. GGF/UGGF creating systems to manage funds themselves is more realistic than relying on the national budget measures. Until project termination, if each UGGF can utilize the forest management fund and make the necessary expenses in forest management activities of forest officers, then it would become

possible to implement forest management activities, for example continue monitoring of GGF activities by forest officers.

In organizational aspects, in order to continuous implementation participatory forest management, it is most important to establish the economic foundations of GGFs and UGGFs. To do it, the capacity for organizational management of GGFs and UGGFs must be more solid, including their fiscal management.

In technical aspects, since the third year, there are some GGFs which already implement activities they learned at the training. To learn such techniques, some people are becoming GGF members. Due to it, there are plenty of possibilities to utilize and spread the techniques and results in GGFs.

It is predicted that some more time is needed until organizational management capacity and techniques become solidly implanted in GGFs, so there is a need to continually monitor and evaluate activities.

3-3 Factors which Contributed to Delivering Effect

(1) Plan Details

- A mastering training plan is being drafted, so that after each training is implemented, GGF members sufficiently master the training content.

(2) Implementation Process

- Coordination with related agencies (Ministry of Agriculture, Ministry of Animal Resources, local governments, local administrative agencies, etc.)
- Employment of Assistant Facilitators and Monitors
- Building good relations between forest administrative agencies (forest officials) and GGFs

3-4 Problems and Factors which Cause Problems

(1) Plan Details

- Differences in initial understanding of JICA and Burkina Faso regarding budget management and implementation methods of a “technical cooperation project.”

(2) Implementation Process

- Decrease in the counterpart’s budget of Burkina Faso side from fiscal 2007 to fiscal 2010, and large delays in its implementation
- Due to worse political conditions in April 2011, Japanese experts temporarily withdrew from Burkina Faso

3-5 Conclusion

Regarding the five evaluation items, validity and effectiveness were items that reached satisfactory levels. Moreover, regarding efficiency, worse political conditions caused Japanese experts to leave Burkina Faso temporarily, and the response to the delayed implementation of Burkina Faso side’s budget relatively affected the progress of project activities; however, ingenuity and efforts were maximized in other aspects, so this reached a satisfactory level. Regarding sustainability, there were points seen which were insufficient in organizational aspects, fiscal aspects and technical aspects; more efforts are needed by UGGFs/GGFs and Burkina Faso forest administration agency related parties.

Regarding impact, many impacts have already appeared at the local level of the targeted Classified Forests, but we did not confirm impacts such as ripple effects on forests other than the targeted Classified Forests. Their reflection in Burkina Faso's policies, or the spread of knowledge to people such as forest officers who did not participate in the project; therefore there is a need for further work on this.

3-6 Recommendations

- (1) Extend the cooperation period
- (2) Approve and utilize PAGs
- (3) Effectively use manuals and guides
- (4) Capability Development of UGGFs for the four Classified Forests
- (5) Share results and hold seminars
- (6) Share termination evaluation results among project related parties

3-7 Lessons

Sharing of Strategy of Project

This project was implemented, in the four-targeted Classified Forests, the vision raised in Burkina Faso's forest policy "Aim at sustainable conservation and management of forests, utilizing natural resources while generating employment for local people and stabilizing incomes." The project was implemented with the strategy of having the results reflected in PAFs to be newly formulated. On the other hand, there are 64 Classified Forests in Burkina Faso, and the formulation methods for PAF obtained from this project and the lessons obtained from practice of their activities are also expected to be utilized in other Classified Forests in Burkina Faso; to do this, it aims to present a successful model. In this kind of technical cooperation project, having both countries clearly share strategy and direction when the project starts is very important for thereafter ensuring the smooth implementation of cooperation, discussions and agreement on detailed points, communication, delivery of results, and independent development.

Effective Utilization of Materials and Equipment Investment

This project is technical cooperation. Priority is not placed on social infrastructure development, or on materials and equipment provision. However, combining with matters such as funding assistance programs of other donor countries and bringing out synergies makes a technical cooperation project more effective with highly independent development.

第1章 終了時評価調査の概要

1-1 終了時評価調査の経緯・目的

ブルキナファソ国（以下、「ブルキナファソ」と記す）では、人口増加、焼畑による移動耕作、無計画な森林伐採などにより森林面積が著しく減少している。サヘル地域に属する国土の北部では深刻な砂漠化が進んでおり、比較的森林資源が豊かであった南部においても、森林の劣化あるいは消失が著しい。この結果、現在ブルキナファソで豊かな森林として残存するのはほぼ指定林¹のみであり、貴重な森林資源として保全の重要性が増している。

このようななか、ブルキナファソ政府は、自然資源を活用して住民の雇用創出と収入の安定化を図りつつ、継続的に森林の保全・管理を目指す国家森林政策² (Politique Forestière Nationale : PFN) を策定した。同政策に基づき、森林管理を所掌する気候問題省〔現 環境・持続開発省 (Ministère de l'environnement et du développement durable : MEDD)〕は、地域住民による持続可能な森林管理の実施を図ったが、中央政府主導による計画では資金及び実施体制に問題があり実施が進まなかった。また、ブルキナファソにおける地方分権化の流れのなか、地方行政レベルでの森林管理に関する計画の策定・実施が急務となった。

以上の背景の下、ブルキナファソ政府の要請に基づき、JICA は 2002 年 8 月から 2005 年 6 月まで開発調査「コモエ県森林管理計画調査」を実施し、コモエ県内の 5 指定林（ブヌナ、トゥムセニ、グァンドゥグ、コングコ、ティダ）について、住民参加型の森林管理計画の策定の方向性とアプローチを提示した。しかし、森林行政機関の職員は住民の参加や非木材林産物 (Non Timber Forest Products : NTFP) の活用を用いた森林管理や、農産物加工など森林以外のセクターを包含した総合的な事業実施の経験がなく、これらを進めるために必要となる知識・技術に乏しかった。このためブルキナファソ政府は、開発調査で提示された住民参加型による持続的な森林管理を実際に推進するための技術協力を要請した。

この要請に基づき、JICA は、2007 年 7 月から 5 年間を協力期間とし、「森林管理住民組織 (Groupement de Gestion Forestière : GGF) 及び住民組織組合 (Union des Groupement de Gestion Forestière : UGGF) を通じて、地域住民による持続的な森林管理を目指した活動が実施されるようになること」を目標とした技術協力プロジェクト「コモエ県における住民参加型持続的森林管理計画³」を開始した。2010 年 1 月に中間レビューが実施され、今般、協力開始から 5 年目を迎え、これまでの活動実績を評価するとともに、残存期間に向けての提言を抽出することを目的に終了時調査団を派遣した。

¹ 仏語で Forêt Classée。国有もしくは公有林で森林整備事業が行われるべきと指定された地域。現在、同国に指定林は合計 64 箇所、107 万 ha が指定されている。対象の 4 指定林は、ブヌナ (Bounouna 1,300ha)、トゥムセニ (Toumussenni 2,500ha)、グァンドゥグ (Gouandougou 9,500ha)、コングコ (Kongouko 27,000ha)。

² 1995 年「国家森林政策 (PFN)」、1996 年「森林整備国家計画」(PNAF) 1997 年「森林法」

³ 本プロジェクトの対象地域は、ティダを除く 4 指定林（ブヌナ、トゥムセニ、グァンドゥグ、コングコ）に限られた。

1-2 調査団の構成

	担当分野	所属	所属
1	総括/団長	池田 修一	JICA 地球環境部森林・自然環境保全担当次長
2	協力計画	寺田 佐恵子	JICA 地球環境部森林・自然環境保全第二課職員
3	評価分析	山田 千晶	ペガサスエンジニアリング株式会社
4	通訳	森田 俊之	日本国際協力センター 通訳

1-3 調査日程

	月日	曜日	業務日程	宿泊
1	1月15日	日	(山田団員、森田団員 ブルキナファソ着)	ワガドゥグ
2	1月16日	月	JICA 事務所打ち合わせ MEDD 次官への表敬及び意見交換 同省自然保全総局長と森林局長との意見交換 日本側及びブルキナファソ側合同評価団打ち合わせ	ワガドゥグ
3	1月17日	火	ワガドゥグからバンフォラへの移動	バンフォラ
4	1月18日	水	プロジェクト本邦専門家及びC/P[ナショナルコーディネーター(NC)、 県局長、州局長]へのインタビュー 内部評価結果および事前質問回答の情報整理	バンフォラ
5	1月19日	木	プロジェクト本邦専門家及びC/P(アシスタントファシリテーター) へのインタビュー 内部評価結果および事前質問回答の情報整理	バンフォラ
6	1月20日	金	C/P(県局課長、Banfora 森林官、Soubaka 森林官、Sidera 森林官)への インタビュー	バンフォラ
7	1月21日	土	データ集計、情報整理	バンフォラ
8	1月22日	日	データ集計、情報整理	バンフォラ
9	1月23日	月	(寺田団員 ブルキナファソ着) C/P(Tiefora 森林官、州局部長、プロジェクト会計スタッフ)へのイ ンタビュー	バンフォラ
10	1月24日	火	プロジェクトからの実施状況ヒアリング 評価団とプロジェクトの意見交換、合同評価団団内協議	バンフォラ
11	1月25日	水	(池田団長 ブルキナファソ着) コモエ県高等弁務官表敬訪問、合同評価団団内協議	バンフォラ
12	1月26日	木	フィールド調査(2指定林:グアンドゥグ、コングコ) ・ シデラ郡森林官事務所森林官訪問 ・ ジャンガ村及びグアンドゥグ村 GGF/UGGF 活動現場視察及びイ ンタビュー	バンフォラ
13	1月27日	金	フィールド調査(2指定林:ブヌナ、トゥムセニ) ・ スバカ郡及びバンフォラ郡森林官事務所森林官訪問 ・ タニャナ村及びブヌナ村 GGF/UGGF 活動現場視察及びインタビ ュー ・ 連携企業訪問(フィットフラ社及びラキエタ石鹸加工研修センター)	バンフォラ
14	1月28日	土	合同評価団団内協議	バンフォラ
15	1月29日	日	バンフォラからワガドゥグへの移動	ワガドゥグ
16	1月30日	月	合同評価団団内協議 財務省経済協力局表敬 外務省地域協力表敬	ワガドゥグ
17	1月31日	火	合同評価団団内協議 MEDD 事務次官及び関係者への評価結果案の報告	ワガドゥグ

18	2月1日	水	合同評価レポートの最終化	ワガドゥグ
19	2月2日	木	合同評価レポート署名 日本大使館へ報告	ワガドゥグ
20	2月3日	金	(山田団員、森田団員 ワガドゥグ発)	

1-4 主要面談者（敬称略・順不同）

<環境・持続開発省（MEDD）>

Ms. MAMA Christine Liehoun 次官（本調査団派遣中に退任）
Mr. SAMBOU Coulicaly 次官（本調査団派遣中に交替で着任；ミニッツ署名者）
Mr. OUEDRADRO Joachim 自然保全総局長（本調査団派遣中に森林野生生物保護総局に組織改編）
Mr. ADAMA Doulkoum 森林局長

<環境・持続開発省カスカード州局（DREDD-Cascades）>

Mr. GUINKO Adama カスカード州局長
Mr. OUEDRAOGO Mahamadi カスカード州局部長

<環境・持続開発省コモエ県局（DPEDD-Comoé）>

Ms. BIKIENGA Salimata コモエ県局長
Mr. TRAORE Hamadé コモエ県局課長

<地方行政局>

Mr. LE Haut コモエ県知事
Mr. SANOGO Daouda シデラドゥグコミューン市長

<コモエ県における住民参加型持続的森林管理計画プロジェクト>

水品 修 総括
酒井 文子 研修監理
Mr. KINI B Nestor ナショナルコーディネーター

<財務省経済協力局>

Mr. TASSIMBEDO Bernard Jean アジア協力総局長
Mr. KABRE Bila Raphaël ブルキナファソ・アジア協力担当官
Ms. TOE Pauline アジア協力課プログラム担当官

<外務省地域協力総局>

Mr. MANLY Boubacar Prosper アジア太平洋中東局長
Mr. PARE Vivien アジア局太平洋中東局課長

<ラボラトワール・フィットフラ社>

Dr. DAKUYO Panzo Zéphirin 代表取締役社長

<ラキエタ石鹼加工研修センター>

Mr. Armed 技術責任者

<JICA ブルキナファソ事務所>

栗元 優 所員

1-5 対象プロジェクトの概要

- (1) 協力期間 2007年7月1日から2012年6月30日（5年間）
- (2) カウンターパート 環境・持続開発省（MEDD）自然保全総局（DGCN）⁴ 森林局（DiFor）
（C/P）機関 環境・持続開発省カスカード州局（DREDD-Cascades）
環境・持続開発省コモエ県局（DPEDD-Comoé）
- (3) プロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）概要（2011年改訂版、Version 3）

上位目標： プロジェクト対象となった4指定林において地域住民による参加型で持続的な森林管理が実践される

プロジェクト目標： 対象となる4つの指定林（ブヌナ、トゥムセニ、グァンドゥグ、コングコ）において、森林管理住民組織（GGF）及び住民組織連合（UGGF）を通じて、地域住民による持続的な森林管理を目指した活動が行われるようになる

アウトプット：

- 1) 住民が参加型で持続的な森林管理を行えるよう、中央・地方の森林行政機関の支援能力が向上する。
- 2) 対象村落において、GF 及び UGGF の持続的な森林管理に関する能力が向上する。
- 3) 地域住民の生活状況が改善される。
- 4) 対象とする4つの指定林において、森林整備事業計画（PAG）⁵が順次改定され、開始される。
- 5) 持続的な森林管理を行うために、地方行政機関及びプロジェクトに関係する国の出先機関の関係者（地域関係者）と森林行政機関との協力関係がより深まる。

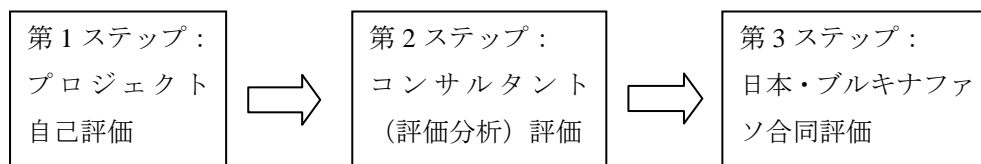
⁴2012年1月に行なわれた環境省内の局名称の変更に伴い、自然保全総局は森林・野生動物総局（Direction générale des forêts et de la faune : DGFF）となった。本報告書では自然保全総局と統一して記載する。

⁵2011年にPAGの名称が森林整備計画（PAF）となった。本報告書ではPAGと統一して記載する。

第2章 終了時評価調査の方法

2-1 終了時評価調査のプロセス

本評価調査は、以下3つのステップにより実施した。



第1ステップでは、プロジェクトによる自己評価として、PDM及び活動計画表（Plan of Operation：PO）に沿った活動及びアウトプットの達成状況の一覧表、プロジェクト内部評価表、自己評価表、専門家や機材・研修などの投入実績をまとめた投入実績表がプロジェクトにより作成された。

第2ステップでは、本調査団の評価分析団員が他団員より1週間先行し、プロジェクト専門家をはじめとするプロジェクト関係者へのインタビューを実施した。その結果を基に、プロジェクトの活動やアウトプットなどの評価及び分析を行った。

第3ステップでは、日本・ブルキナファソ側評価員により、合同評価調査を実施した。第1ステップ及び第2ステップにて行われたプロジェクト自己評価および評価分析団員による評価結果を基に、評価5項目に沿って本プロジェクトのプロジェクト目標及びアウトプットの達成状況を確認し、プロジェクト終了にむけて提言を行い、今後の類似案件実施のための教訓を抽出した。なおブルキナファソ側の評価員は、以下の2名である。

- ・ Mr.OUEDRAOGO Lassane 環境・持続開発省（MEDD）次官室付調査役
- ・ Ms.KAFANDO K.Judith 環境・持続開発省（MEDD）調査計画局

2-2 データ収集方法

本評価調査における主なデータ収集方法及び情報源は以下のとおりである。

- ・ Record of Discussion（R/D）、PDM及びPO
- ・ 業務完了報告書、プロジェクト事業進捗報告書、中間レビュー報告書、プロジェクト内部評価表、自己評価表などのプロジェクト関連資料
- ・ 質問票調査（日本人専門家、郡森林官事務所長）
- ・ ブルキナファソ MEDD 関係者（次官、自然保全総局長、森林局長、カスカード州局長及び部長、コモエ県局長及び課長）へのインタビュー
- ・ プロジェクトチーム（日本人専門家、NC、アシスタントファシリテーター、会計担当者）へのインタビュー
- ・ 対象となる4指定林のGGF及びUGGFへのインタビュー
- ・ プロジェクトと連携活動を行っている民間企業（ラボラトワール・フィットフラ社、ラキエタ石炭加工研修センター）へのインタビュー
- ・ 直接観察（4指定林）

2-3 評価項目

2-3-1 プロジェクトの実績の検証

PDM 及び PO に基づき、プロジェクト目標や上位目標の達成度、アウトプットの産出状況、投入の実施状況などを検証する。

2-3-2 実施プロセスの検証

活動は計画とおりに行われたか、プロジェクトのマネジメントは適切であったか、関係者間のコミュニケーションに問題はないか、受益者の認識に変化はあったかなどを検証する。そして、実施プロセスで得られた情報により、プロジェクトの効果発現に係る貢献要因及び阻害要因を抽出する。

2-3-3 評価基準

「2-3-1 プロジェクトの実績の検証」「2-3-2 実施プロセスの検証」の結果を基にデータを解釈し、プロジェクトを評価 5 項目の観点から検証する。

項目	視点
妥当性	プロジェクトの目指す効果（プロジェクト目標や上位目標）が相手国及び日本国の政策との整合性はあるか、受益者のニーズと合致しているかという観点から検討する。
有効性	プロジェクト目標の達成度合い、アウトプットとプロジェクト目標の因果関係という観点から検討する。
効率性	プロジェクトの投入によるアウトプットの程度について、投入のタイミング、質、量という観点から妥当であったかを検討する。
インパクト	プロジェクト実施によりもたらされる波及効果（上位目標を含む）について、プロジェクト開始当初予期していなかった効果も含め検討する。
自立発展性	プロジェクト終了後、プロジェクトで発現した効果が持続する見込みがあるかという点について、政策・制度・財政・技術的な観点から検討する。

第3章 プロジェクトの実績

3-1 投入実績

プロジェクト実施期間である2007年7月1日から2011年12月末日時点までの日本側及びブルキナファソ側の投入実績は以下のとおりである。詳細については、合同評価報告書（附属資料3）を参照のこと。

3-1-1 日本側の投入実績

項目	実績
日本人専門家派遣	短期専門家 8 名（チーフアドバイザー、副総括/生計向上、参加型開発、研修監理、業務調整）計 84.29M/M
資機材	車両、バイク、他資機材 日本調達分：66,611,500 YEN（2011年12月末日時点）
本邦研修	計 4 名（2008年1名、2009年2名、2010年1名）
ローカルコスト	執行額：403,099,550 YEN（2012年1月末日時点） 当初予算額：380,000,000 YEN（2007年6月7日の合意文書に基づく）

3-1-2 ブルキナファソ側の投入実績

項目	実績
C/P 配置	監督（DiFor）：1名
	監督（DREDD-Cascades）：5名
	監督（DPEDD-Comoé）：4名
	森林官（対象4指定林）：14名
	NC：1名
支援要員	秘書・会計 1名、運転手 1名、警備員 1名、苗畑担当・連絡員 1名
施設の提供	C/P機関であるDREDD-Cascades内にプロジェクトの事務所スペースが確保された。
ローカルコスト	執行額：125,334,332 フラン・セーフター（FCFA） （2011年12月末日時点） 当初予算額：250,000,000 FCFA（2007年6月7日の合意文書に基づく）

（両替レート 1FCFA = JPY 0.206）

3-2 活動の実績

プロジェクトの主な活動実績は附属資料4を参照。

3-3 アウトプットの実績

アウトプット 1	住民が参加型で持続的な森林管理を行えるよう、中央・地方の森林行政機関の支援能力が向上する																														
<p>指標 1-1：達成済み</p> <p>プロジェクト関係森林官が参加型持続的森林管理の研修を少なくとも中央レベルで4回、地方レベルで6回受け、効率よく地域関係者と協働する。</p>	<p>達成状況</p> <p>中央・地方の森林行政機関職員を対象に研修は計画とおりに実施された。中央及び地方レベルにおける実施状況は以下のとおりである。</p> <p>「中央レベル：4回」</p> <table border="1" data-bbox="563 589 1404 739"> <tr><td>1</td><td>自己能力分析・ファシリテーション能力</td></tr> <tr><td>2</td><td>参加とは</td></tr> <tr><td>3</td><td>PAG 策定</td></tr> <tr><td>4</td><td>モニタリング・評価</td></tr> </table> <p>「地方レベル：11回」</p> <table border="1" data-bbox="563 806 1404 1254"> <tr><td>1</td><td>自己能力分析・ファシリテーション能力</td></tr> <tr><td>2</td><td>参加とは</td></tr> <tr><td>3</td><td>参加型持続可能な森林管理に向けたアプローチの変化、近代養蜂技術、NTPF</td></tr> <tr><td>4</td><td>PCM 手法</td></tr> <tr><td>5</td><td>組織能力強化-記録と会計</td></tr> <tr><td>6</td><td>PAG 策定</td></tr> <tr><td>7</td><td>モニタリング・評価</td></tr> <tr><td>8</td><td>事務所整備</td></tr> <tr><td></td><td>PAG 策定</td></tr> <tr><td>10</td><td>ジェンダー</td></tr> <tr><td>11</td><td>Market Analysis & Development</td></tr> </table>	1	自己能力分析・ファシリテーション能力	2	参加とは	3	PAG 策定	4	モニタリング・評価	1	自己能力分析・ファシリテーション能力	2	参加とは	3	参加型持続可能な森林管理に向けたアプローチの変化、近代養蜂技術、NTPF	4	PCM 手法	5	組織能力強化-記録と会計	6	PAG 策定	7	モニタリング・評価	8	事務所整備		PAG 策定	10	ジェンダー	11	Market Analysis & Development
1	自己能力分析・ファシリテーション能力																														
2	参加とは																														
3	PAG 策定																														
4	モニタリング・評価																														
1	自己能力分析・ファシリテーション能力																														
2	参加とは																														
3	参加型持続可能な森林管理に向けたアプローチの変化、近代養蜂技術、NTPF																														
4	PCM 手法																														
5	組織能力強化-記録と会計																														
6	PAG 策定																														
7	モニタリング・評価																														
8	事務所整備																														
	PAG 策定																														
10	ジェンダー																														
11	Market Analysis & Development																														

現地でのインタビューおよび専門家の報告書から、以下のとおり、森林行政機関職員の意識及び行動の変化が認められた。

- 森林管理方法に関する幅広い知識を得ることにより、積極的にプロジェクト活動（例：植林活動）に参加するようになった。
- モニタリング・評価の研修により得られた知識・経験を内部評価調査など実地で活かすことができた。
- また、県局長を中心とし、定期的にプロジェクト活動をモニタリングするようになった。
- OJT 研修を通じて、GGF/UGGF に対する森林管理技術研修（例：伐採技術及び野火管理）の副講師を担当したことにより、更に森林管理に関する知識を増やしたいと思うようになった
- PAG 策定業務に積極的に参加するようになった

アウトプット 2	対象村落において、GGF 及び UGGF の持続的森林管理に関する能力が向上する
----------	--

<p>指標 2-1：達成済み</p> <p>27GGF 及び 4UGGF が新規設置又は再活性化される</p>	<p>達成状況</p> <p>GGF に関しては、プロジェクト開始前に設置されていた 13GGF の執行部の刷新及びその組織能力の強化を行うなど、実施体制を確立した。14GGF が新規に設置された。</p> <p>UGGF については、既存の 2UGGF（ブヌナ、トゥムセニ）の執行部が刷新及びその組織能力の強化が行われ、2UGGF（コングコ、グァンドゥグ）が新規に設置された。</p>																																																																		
<p>指標 2-2：達成済み</p> <p>GGF 及び UGGF が研修で得た技術を活用し、森林管理活動を開始する</p>	<p>達成状況</p> <p>研修を受けた GGF の内、研修で得た技術を活用及び実地活動を開始している GGF の割合を以下に示す。</p> <table border="1" data-bbox="566 672 1396 1108"> <thead> <tr> <th>実施活動名</th> <th>指定林名</th> <th>トゥムセニ</th> <th>コングコ</th> <th>グァンドゥグ</th> <th>ブヌナ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>シアバター品質向上</td> <td></td> <td>4/4</td> <td>9/9</td> <td>7/7</td> <td>1/3</td> </tr> <tr> <td>スンバラ品質向上</td> <td></td> <td>4/4</td> <td>0/0</td> <td>0/0</td> <td>3/3</td> </tr> <tr> <td>薬用植物活用</td> <td></td> <td>7/8</td> <td>0/9</td> <td>2/7</td> <td>2/3</td> </tr> <tr> <td>サバ樹実活用</td> <td></td> <td>1/1</td> <td>0/2</td> <td>2/2</td> <td>1/3</td> </tr> <tr> <td>近代蜂蜜</td> <td></td> <td>6/6</td> <td>3/3</td> <td>2/2</td> <td>2/2</td> </tr> <tr> <td>伐採</td> <td></td> <td>4/8</td> <td>0/0</td> <td>0/7</td> <td>0/0</td> </tr> <tr> <td>製炭</td> <td></td> <td>4/8</td> <td>1/1</td> <td>1/1</td> <td>0/0</td> </tr> <tr> <td>野火管理技術</td> <td></td> <td>2/8</td> <td>9/9</td> <td>7/7</td> <td>2/3</td> </tr> <tr> <td>苗木生産・植林技術</td> <td></td> <td>6/8</td> <td>9/9</td> <td>3/7</td> <td>3/3</td> </tr> <tr> <td>牧草管理</td> <td></td> <td>2/8</td> <td>9/9</td> <td>1/7</td> <td>0/3</td> </tr> </tbody> </table> <p>出所) プロジェクトチーム作成の表を基に終了時評価調査団により作成</p>	実施活動名	指定林名	トゥムセニ	コングコ	グァンドゥグ	ブヌナ	シアバター品質向上		4/4	9/9	7/7	1/3	スンバラ品質向上		4/4	0/0	0/0	3/3	薬用植物活用		7/8	0/9	2/7	2/3	サバ樹実活用		1/1	0/2	2/2	1/3	近代蜂蜜		6/6	3/3	2/2	2/2	伐採		4/8	0/0	0/7	0/0	製炭		4/8	1/1	1/1	0/0	野火管理技術		2/8	9/9	7/7	2/3	苗木生産・植林技術		6/8	9/9	3/7	3/3	牧草管理		2/8	9/9	1/7	0/3
実施活動名	指定林名	トゥムセニ	コングコ	グァンドゥグ	ブヌナ																																																														
シアバター品質向上		4/4	9/9	7/7	1/3																																																														
スンバラ品質向上		4/4	0/0	0/0	3/3																																																														
薬用植物活用		7/8	0/9	2/7	2/3																																																														
サバ樹実活用		1/1	0/2	2/2	1/3																																																														
近代蜂蜜		6/6	3/3	2/2	2/2																																																														
伐採		4/8	0/0	0/7	0/0																																																														
製炭		4/8	1/1	1/1	0/0																																																														
野火管理技術		2/8	9/9	7/7	2/3																																																														
苗木生産・植林技術		6/8	9/9	3/7	3/3																																																														
牧草管理		2/8	9/9	1/7	0/3																																																														

全 27GGF に対し、計画とおりに持続的森林管理技術及び組織運営に係る研修が実施され、GGF/UGGF の森林管理能力向上を示すいくつかの例が以下のとおり観察された。

- スンバラ、野火管理、放牧の研修を受講した後、自分たちで実践活動を開始するようになった。
- 自らアイデアを出し、プロジェクト活動に積極的に参加するようになった。
- 問題が発現した際に、自分たちでその解決法を話し合うようになった。

ただし、プロジェクト活動が GGF に定着し、森林管理活動が GGF により確実に実施されるようになるには、プロジェクト終了時まで、継続的にフォローアップをする必要がある。

プロジェクトは、残存期間に、以下の活動を実施する予定である。

- GGF/UGGF での「記録と会計」のノート付けの再徹底、フォローアップ
- UGGF を介した所得創出活動生産品の集荷・販売システムの実践継続
- 木材・非木材林産物販売による収入の透明な分配システムの明確化と実践
- PAG に基づく UGGF レベルでの年間計画の作成とモニタリング手法の徹底
- UGGF によるプロジェクト活動のモニタリングの徹底

<p>アウトプット 3</p>	<p>地域住民の生活状況が改善される</p>
<p>指標 3-1：達成済み</p>	<p>達成状況</p>

対象指定林関連の GGF が木材及び NTFP を活用した所得創出活動を開始する

以下のとおり、対象指定林における GGF が所得創出活動を開始している。

活動名	活動実施 GGF 数	2009 年～2011 年の売 高 (FCFA)
シアバター品質向上	21	6,406,775
スンバラ品質向上	7	1,010,360
薬用植物活用	11	4,565,525
サバ樹実活用	4	データなし
近代養蜂	13	1, 47,750
伐採	4	データなし
製炭	6	1 9,250
合計	66 ⁶	13,939,660

出所) プロジェクトチーム作成の表を基に終了時評価調査団により作成

指標 3-2: 達成済み

GGF が活動に要する資機材などへの再投資を行う

達成状況

全 GGF が所得創出活動の収入の一部を積立て、運用資金を形成しており、ブヌナ GGF 及びトンガ GGF の 2GGF が既に巣箱を購入し、資機材の数量を増やすための再投資を行っている。指定林毎に、原材料及び消耗品への投資の詳細は以下のとおりである。

指定林名 投資対象項目	トゥムセニ	コンゴコ	グァントゥグ	ブヌナ
スンバラ種	5/8	0/9	0/7	3/3
サバ果	1/8	0/9	0/7	1/3
カリテ実	1/8	1/9	0/7	2/3
養蜂	0/8	0/9	0/7	1/3
苗畑ポット	0/8	0/9	3/7	1/4
ポリタンク	0/8	0/9	2/7	0/3
プラスチック製袋	0/8	0/9	1/7	0/3
養蜂防護服の修理	1/8	0/9	0/7	1/3
資機材の修理	4/8	0/9	0/7	0/3

出所) プロジェクトチーム作成の表を基に終了時評価調査団により作成

計画とおり活動を実施し、木材林産物として木炭の生産・販売、また NTFP として養蜂生産・販売、薬用植物販売、シアバター生産・販売を行う GGF が現れ、所得創出につながるようになってきた。GGF は、製品の販売により得た収益の一部を次の生産用の材料費や森林管理活動・グループ運営費に当て、残金を生産者間で分配することにしている。第3年次には全ての GGF の所得創出活動で純利益が認められており、生活状況の改善につながるが見込まれる。

アウトプット 4

対象とする 4 つの指定林において、PAG が順次策定され、開始される

⁶ GGF の重複あり

<p><u>指標 4-1：終了時までに達成が見込まれる</u></p> <p>対象指定林毎に1計画、合計4つのPAGが策定される</p>	<p><u>達成状況</u></p> <p>終了時評価時点においては、4指定林のPAGはVersion 4（最終版）が作成中である。2012年3月にMEDDの検討会を経て、PAG原案を作成予定で、2012年4月から5月には県レベル国土整備県委員会（Commissions Provinciales d'Aménagement du Territoire：CPAT）開催により県レベルでの承認が予定されている。また、MEDDの旧次官によると、PAGの州レベル国土整備州委員会（Commissions Regional d'Aménagement du Territoire：CRAT）までの承認プロセスは、カスカード州局長により実施される。国土整備国家委員会（Commission Nationale d'Aménagement du Territoire：CNAT）における承認は、MEDDによる省令として閣議決定する必要があるため、時間及び関係者との調整を要すると予測される。</p> <p>PAG策定のためにプロジェクトが実施した業務は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 対象指定林毎の4つのPAGの策定スケジュールの作成 • 森林野生動物の生息ゾーン調査を含む4指定林の森林インベントリー • 林産物生産ゾーンに関する調査 • 4指定林周辺住民によるNTFPの活用に関する調査 • バンフォラ指定林における木材市場に関する情報の収集
<p><u>指標 4-2：終了時までに達成が見込まれる</u></p> <p>南スーダン気候帯における森林整備方法論ガイドが作成される</p>	<p><u>達成状況</u></p> <p>第3年次にドラフトVersion 1、第4年次ドラフトVersion 2が作成され、第5年次にはドラフト最終版（和文・仏文）が完成した。今後は、印刷・製本の作業に入る予定である。</p>
<p><u>指標 4-3：達成済み</u></p> <p>地域住民向け参加型持続的森林管理実践マニュアルが少なくとも8種類作成される</p>	<p><u>達成状況</u></p> <p>当初、8種類の地域住民向け参加型持続的森林管理実践マニュアルの策定が予定されていた。最終的に、複数のテーマ（炭生産、苗木生産、伐採技術）のマニュアルは既に存在することから、日本・ブルキナファソ側の協議を経て、5種類のマニュアルが作成された。</p>
<p><u>指標 4-4：終了時までに達成が見込まれる</u></p> <p>GGF/UGGFが継続的に少なくとも4種類の森林管理活動の技術を習得し、PAGに則って活動を開始する</p>	<p><u>達成状況</u></p> <p>全GGFは10種類の森林管理技術のうち4種類以上の技術を習得し、既に活動を開始している。</p> <p>10種類の森林管理活動は以下のとおりである。</p> <p>①苗木生産・植林技術②伐採技術③野火管理技術④牧草管理技術⑤製炭技術⑥シアバター品質向上⑦薬用植物活用技術⑧近代養蜂⑨スンバラ品質向上⑩サバ樹実活用</p>

4指定林における森林整備事業計画（PAG）のドラフトは作成中であり、2012年5月までには策定・承認される予定である。ただし、承認プロセスのために関係者との調整が必要であるため、時間を要すると考えられる。一方、承認前ではあるが、GGFは現行のPAGに則った活動を開始

している。

<p>アウトプット5</p>	<p>持続的な森林管理を行うために、地方行政機関及びプロジェクトに関係する国の出先機関の関係者（地域関係者）と森林行政機関との協力関係がより深まる</p>																					
<p>指標 5-1：達成は困難である。 地域関係者及び関係省庁関係者との協議会を少なくとも毎年、年3回開催する</p>	<p>達成状況 協議会は、以下のとおり実施された。</p> <table border="1" data-bbox="571 573 1394 1055"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>日程</th> <th>セミナー形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2007年度</td> <td>8月2日 2月21日</td> <td>プロジェクト開始ワークショップ 第1回合同調整委員会（JCC）</td> </tr> <tr> <td>2008年度</td> <td>5月28日 2月20日</td> <td>第1回地域関係者セミナー 第2回 JCC</td> </tr> <tr> <td>2009年度</td> <td>6月19日 7月17日</td> <td>第2回地域関係者セミナー 第3回 JCC</td> </tr> <tr> <td>2010年度</td> <td>3月31日 5月28日</td> <td>第4回 JCC 第3回地域関係者セミナー</td> </tr> <tr> <td>2011年度</td> <td>4月8日 5月2週目⁷</td> <td>第5回 JCC 第4回地域関係者セミナー</td> </tr> <tr> <td>2012年度</td> <td>3月（予定） 4月（予定）</td> <td>第6回 JCC 総括セミナー</td> </tr> </tbody> </table> <p>指標の達成度については、年3回の開催は実施できていないが、計画とおりの意見交換は行われ、地域関係者と森林行政機関との協力関係が深まったといえる。</p>	年度	日程	セミナー形態	2007年度	8月2日 2月21日	プロジェクト開始ワークショップ 第1回合同調整委員会（JCC）	2008年度	5月28日 2月20日	第1回地域関係者セミナー 第2回 JCC	2009年度	6月19日 7月17日	第2回地域関係者セミナー 第3回 JCC	2010年度	3月31日 5月28日	第4回 JCC 第3回地域関係者セミナー	2011年度	4月8日 5月2週目 ⁷	第5回 JCC 第4回地域関係者セミナー	2012年度	3月（予定） 4月（予定）	第6回 JCC 総括セミナー
年度	日程	セミナー形態																				
2007年度	8月2日 2月21日	プロジェクト開始ワークショップ 第1回合同調整委員会（JCC）																				
2008年度	5月28日 2月20日	第1回地域関係者セミナー 第2回 JCC																				
2009年度	6月19日 7月17日	第2回地域関係者セミナー 第3回 JCC																				
2010年度	3月31日 5月28日	第4回 JCC 第3回地域関係者セミナー																				
2011年度	4月8日 5月2週目 ⁷	第5回 JCC 第4回地域関係者セミナー																				
2012年度	3月（予定） 4月（予定）	第6回 JCC 総括セミナー																				
<p>指標 5-2：達成は困難である プロジェクトと州局との間で提携協定が締結される</p>	<p>達成状況 2010年1月に本プロジェクトと DREDD-Cascades との間で協定締結の予定であったが、終了時評価時点では提携協定の署名に至っていない。協定がなくとも、州局とプロジェクトの関係は強化されており、プロジェクトとしては、提携協定は目指さない。</p>																					
<p>指標 5-3：達成済み 地域の民間企業との連携関係が構築される</p>	<p>達成状況 現在、3民間企業及び1団体と連携活動を実施している。</p> <table border="1" data-bbox="571 1525 1394 1939"> <thead> <tr> <th>連携1：ラボラトワール・フィットフラ社（バンフォラ）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬用植物活用で実績のあるフィットフラ社と研修を受けたGGFが採取した薬用植物（トリバラ）を買取することで連携が開始された。フィットフラ社は地域の薬用植物を利用した薬品、健康食品、石鹸などの製造・販売会社である。フィットフラ社はブルキナファソでは、随一の薬用植物利用の技術、製品開発能力を持ち、この分野でのパイオニア的存在である。 フィットフラ社による研修を通じて、GGFが薬用植物の採集、栽培、一次加工・保存の技術を習得・実施し、フィットフラ社がそれを製品原料として買い取り、GGFの収入源創出と民間企業の原料調達の両方を達成する win-win の関係構築と、ビジネスモ</td> </tr> </tbody> </table>	連携1：ラボラトワール・フィットフラ社（バンフォラ）	薬用植物活用で実績のあるフィットフラ社と研修を受けたGGFが採取した薬用植物（トリバラ）を買取することで連携が開始された。フィットフラ社は地域の薬用植物を利用した薬品、健康食品、石鹸などの製造・販売会社である。フィットフラ社はブルキナファソでは、随一の薬用植物利用の技術、製品開発能力を持ち、この分野でのパイオニア的存在である。 フィットフラ社による研修を通じて、GGFが薬用植物の採集、栽培、一次加工・保存の技術を習得・実施し、フィットフラ社がそれを製品原料として買い取り、GGFの収入源創出と民間企業の原料調達の両方を達成する win-win の関係構築と、ビジネスモ																			
連携1：ラボラトワール・フィットフラ社（バンフォラ）																						
薬用植物活用で実績のあるフィットフラ社と研修を受けたGGFが採取した薬用植物（トリバラ）を買取することで連携が開始された。フィットフラ社は地域の薬用植物を利用した薬品、健康食品、石鹸などの製造・販売会社である。フィットフラ社はブルキナファソでは、随一の薬用植物利用の技術、製品開発能力を持ち、この分野でのパイオニア的存在である。 フィットフラ社による研修を通じて、GGFが薬用植物の採集、栽培、一次加工・保存の技術を習得・実施し、フィットフラ社がそれを製品原料として買い取り、GGFの収入源創出と民間企業の原料調達の両方を達成する win-win の関係構築と、ビジネスモ																						

⁷ 政情悪化に伴う日本人専門家一時国外退避により中止

	<p>デルの構築がなされた。フィットフラ社との連携は順調で、引き続き生産と販売が直結する形で活動していく。</p>
	<p>連携2：ボンバテクノ社（バンフォラ）</p>
	<p>樹実活用で実績のあるボンバテクノ社と連携。また、GGF 研修の講師を依頼した。研修を通し、樹実からシロップを抽出し、ジュースを製造する技術が GGF へ移転された。今後は、GGF が安定的にボンバテクノ社に樹実を販売する予定である。ボンバテクノ社は、サバの実を利用した清涼飲料水の開発を手がけており、製品化に成功している。しかし、サバの実は野生種であり、原料の安定した供給者、生産者が不在な為、安定した生産ができない状況にある。そこで、GGF がサバの実の収穫から、収穫後処理、乾燥、保存、加工までの一連の技術を習得し、ボンバテクノ社の原料供給源となることにより、GGF は安定した収入を得られるようになる。ボンバテクノ社は、ボンバテクノ社が指導した技術により処理された安全な原料を得ることが可能となる。</p>
	<p>連携3：ラキエタ石鹼加工研修センター（バンフォラ）</p>
	<p>2009年7月以降、プロジェクトのGGFが同研修センターにシアバターを納品。同センターで石鹼へ加工され、その一部は、ア・ダンセ社（連携3）との連携により日本へ輸出される。また地元市場でも販売している。</p>
	<p>連携4：ア・ダンセ社（日本）</p>
	<p>日系会社であるア・ダンセ社は、ラキエタ研修センターと提携し、シアバター石鹼用にGGFからのシアバターを使用している。今後はシアバター石鹼だけでなく、ア・ダンセが直接シアバターを買い取り、日本で加工する可能性もある。</p>
	<p>出所) プロジェクトチーム作成の表を基に終了時評価調査団により作成</p>

地域関係者セミナー及びJCCでの意見交換や、地元の複数の民間企業及び団体のプロジェクト実施への参加を通じて、森林行政機関とカスカード州における他省の職員、他ドナー国プロジェクト関係者、民間企業などの地域関係者間での持続的な森林管理を行うための協力関係が深まった。

3-4 プロジェクト目標の達成状況

<p>プロジェクト目標</p>	<p>対象となる 4 つの指定林（ブヌナ、トゥムセニ、グァンドゥグ、コンゴコ）において、GGF 及び UGGF を通じて、地域住民による持続的森林管理を目指した活動が行われるようになる</p>																				
<p><u>指標 1：達成済み</u></p> <p>対象指定林において、GGF/UGGF による森林管理活動の基礎となるゾーニングが明確にされる</p>	<p><u>達成状況</u></p> <p>森林整備目標に即した森林整備区分が以下の時期/年度に明確にされた。</p> <table border="1" data-bbox="513 551 1396 846"> <thead> <tr> <th>活動内容</th> <th>トゥムセニ</th> <th>コンゴコ</th> <th>グァンドゥグ</th> <th>ブヌナ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>森林整備区分を土地利用図に記載</td> <td>3 年次</td> <td>3 年次</td> <td>3 年次</td> <td>3 年次</td> </tr> <tr> <td>森林整備区分の境界線の伐開工事</td> <td>5 年次</td> <td>4 年次</td> <td>4 年次</td> <td>5 年次</td> </tr> <tr> <td>境界表示板の設置、標識製作及び設置工事</td> <td>5 年次</td> <td>5 年次</td> <td>5 年次</td> <td>5 年次</td> </tr> </tbody> </table> <p>出所) プロジェクトチーム作成の表を基に終了時評価調査団により作成</p>	活動内容	トゥムセニ	コンゴコ	グァンドゥグ	ブヌナ	森林整備区分を土地利用図に記載	3 年次	3 年次	3 年次	3 年次	森林整備区分の境界線の伐開工事	5 年次	4 年次	4 年次	5 年次	境界表示板の設置、標識製作及び設置工事	5 年次	5 年次	5 年次	5 年次
活動内容	トゥムセニ	コンゴコ	グァンドゥグ	ブヌナ																	
森林整備区分を土地利用図に記載	3 年次	3 年次	3 年次	3 年次																	
森林整備区分の境界線の伐開工事	5 年次	4 年次	4 年次	5 年次																	
境界表示板の設置、標識製作及び設置工事	5 年次	5 年次	5 年次	5 年次																	
<p><u>指標 2：達成済み</u></p> <p>各対象指定林の整備目標が明確に設定され、その目標に沿った森林管理活動が GGF/UGGF により継続的に実施される</p>	<p><u>達成状況</u></p> <p>各指定林の整備目標が以下のように設定され、現在では、その目標に沿った森林管理活動が GGF/UGGF により実施されている。</p> <table border="1" data-bbox="513 1061 1396 1794"> <thead> <tr> <th colspan="2">4 指定林の共通整備目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">森林資源の持続的管理と地域住民の生活条件の向上に寄与すること</td> </tr> <tr> <td colspan="2">トゥムセニ、コンゴコ、グァンドゥグ指定林の整備目標</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> 生物多様性を保全する バンフォラやボボ・デウラッソなどの大消費地へ林産物を供給する 地域住民に所得創出活動の機会を提供する 自然資源管理の地域における統治を確実に実施する </td> </tr> <tr> <th colspan="2">ブヌナ指定林の整備目標</th> </tr> <tr> <td colspan="2">整備目標をゾーンごとに設定した。</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><u>生産ゾーン</u></td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> バンフォラ、ボボ・デウラッソでは、薪炭材、棒材、用材及び NTFP を大量に消費するので供給量を確保するため、森林の生産能力を向上させる NTFP を最大限に活用した所得創出機会を創出する </td> </tr> <tr> <td colspan="2"><u>レクリエーションゾーン</u></td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> 環境教育及び娯楽環境を提供するため、森林内にレクリエーションのための場所を設ける 地域住民のための雇用機会を創出する 生物多様性保全を優先する </td> </tr> </tbody> </table> <p>出所) プロジェクトチーム作成の表を基に終了時評価調査団により作成</p>	4 指定林の共通整備目標		森林資源の持続的管理と地域住民の生活条件の向上に寄与すること		トゥムセニ、コンゴコ、グァンドゥグ指定林の整備目標		<ul style="list-style-type: none"> 生物多様性を保全する バンフォラやボボ・デウラッソなどの大消費地へ林産物を供給する 地域住民に所得創出活動の機会を提供する 自然資源管理の地域における統治を確実に実施する 		ブヌナ指定林の整備目標		整備目標をゾーンごとに設定した。		<u>生産ゾーン</u>		<ul style="list-style-type: none"> バンフォラ、ボボ・デウラッソでは、薪炭材、棒材、用材及び NTFP を大量に消費するので供給量を確保するため、森林の生産能力を向上させる NTFP を最大限に活用した所得創出機会を創出する 		<u>レクリエーションゾーン</u>		<ul style="list-style-type: none"> 環境教育及び娯楽環境を提供するため、森林内にレクリエーションのための場所を設ける 地域住民のための雇用機会を創出する 生物多様性保全を優先する 	
4 指定林の共通整備目標																					
森林資源の持続的管理と地域住民の生活条件の向上に寄与すること																					
トゥムセニ、コンゴコ、グァンドゥグ指定林の整備目標																					
<ul style="list-style-type: none"> 生物多様性を保全する バンフォラやボボ・デウラッソなどの大消費地へ林産物を供給する 地域住民に所得創出活動の機会を提供する 自然資源管理の地域における統治を確実に実施する 																					
ブヌナ指定林の整備目標																					
整備目標をゾーンごとに設定した。																					
<u>生産ゾーン</u>																					
<ul style="list-style-type: none"> バンフォラ、ボボ・デウラッソでは、薪炭材、棒材、用材及び NTFP を大量に消費するので供給量を確保するため、森林の生産能力を向上させる NTFP を最大限に活用した所得創出機会を創出する 																					
<u>レクリエーションゾーン</u>																					
<ul style="list-style-type: none"> 環境教育及び娯楽環境を提供するため、森林内にレクリエーションのための場所を設ける 地域住民のための雇用機会を創出する 生物多様性保全を優先する 																					

4 指定林において、GGF/UGGF を通じて、地域住民による持続的森林管理を目指した活動が行われており、特に生計向上に資する NTFP 活用並びに防火線開設などの野火管理活動が活発である。

3-5 実施プロセスの検証

コミュニケーション

現 NC 着任以降、NC を介して日本側からブルキナファソ側への情報伝達を行う仕組みが一層機能するようになった。プロジェクト関係者の間では徐々に意思疎通が円滑になり、現在は極めて活発にコミュニケーションが行われている。その一方、ブルキナファソ側の実施機関内の連絡は、いまだ不十分である。

森林官の研修講師への起用

2009 年 10 月以降、森林管理技術研修において C/P 機関職員を講師として活用することができるようになり、コモエ県局長及びスウバカ郡森林事務所長が研修の副講師を務めるなど、C/P 職員のプロジェクト活動への関与が改善されている。

モニタリング

第 2 回 JCC でのブルキナファソ側からの要請を受け、2009 年 10 月以降、森林官チーム⁸が四半期毎のモニタリングを実施することになった。しかし、2010 年から 2011 年、同チームによるモニタリングは 1 度も実施されていない。その主な理由として、関係者のスケジュール調整が機能しなかったことが挙げられる。その一方で、県局長の監督のもと、県局職員がモニタリング活動を実施している。

PAG から PAF への名称変更

2011 年 4 月 5 日付で森林法が改訂され、改訂森林法では PAG (Plan d'Aménagement et de Gestion) ではなく、PAF (Plan d'Aménagement Forestier) と称されるようになった。

PDM の変遷

PDM Version 2		PDM Version 3
南スーダン気候帯において地域住民による参加型で持続的な森林管理が実践される)	⇒ 上位目標 変更	プロジェクト対象となった 4 指定林において地域住民による参加型で持続的な森林管理が実践される
上位目標の指標 1	⇒ 削除	南スーダン気候帯に属する指定林において参加型持続的森林整備事業計画が順次策定され、地域住民による持続的森林管理が開始される
プロジェクト目標の外部条件	⇒ 追加	対象 4 指定林の PAG がブルキナファソ政府により承認される
アウトプットの外部条件	⇒ 追加	プロジェクト対象地域において安全が確保される

⁸森林官チームの構成：カスカード州局長、コモエ県局長、DiFor 森林整備部代表 1 名及び生態モニタリング・統計局 (Direction du suivi écologique et des statistiques : DSES) 代表 1 名

その他、プロジェクト実施上の貢献及び阻害要因として以下の点が挙げられる。

貢献要因

- 関連機関との連携（農業省、動物資源省、自治体、地域行政機関など）
- アシスタントファシリテーター及びモニターの起用
- 森林行政機関（森林官）と GGF との関係改善

阻害要因

- JICA とブルキナファソとの「技術協力プロジェクト」の予算管理・執行方法に対する当初の認識の違い
- 2007年度から2010年度におけるブルキナファソ側のカウンター予算の減額及び執行の大幅な遅れ
- 2011年4月、政情悪化に伴う日本人専門家一時国外退避

第4章 評価5項目

4-1 妥当性

本プロジェクトは、ターゲットグループ、ブルキナファソの政策及び我が国の対ブルキナファソ援助方針と合致しているとともに、プロジェクト対象地のニーズとも整合性を有しており、その実施における妥当性は「高い」と考えられる。

ブルキナファソの政策との整合性

ブルキナファソ政府は、PFNを策定し、自然資源を持続的に活用して、雇用の創出や収入の安定も図りつつ、住民を主要なアクターと位置づけた持続的な森林の保全・管理を目指す政策を推進している。また、MEDDはPFNに基づき、PNAF及び「森林法」を策定し、地域住民により持続可能な森林管理に関する目標を定め、その実施を目指している。

我が国の対ブルキナファソ援助方針との整合性

本プロジェクトは、コモエ県における4つの指定林における地域住民の生活状況の改善と森林管理能力向上を目指しており、ブルキナファソ援助重点分野の1つである「自然資源の保全と農村開発」に位置づけられることから、対ブルキナファソ援助方針との整合性がある。また、第4回アフリカ開発会議(The Fourth Tokyo International Conference on African Development : TICAD-IV)において気候変動の影響に対してアフリカ諸国が取った対策措置への支援強化を打ち出した日本政府の政府開発援助政策との整合性も高いため、本プロジェクトの妥当性は高いといえる。

ターゲットグループのニーズとの整合性

地域住民は、指定林に依存して生活しており、GGF/UGGFを通じた持続的な森林管理を行うことを目指すのは適切なアプローチといえる。PAGの策定と実施は地域住民の生活条件の向上に持続可能な形で貢献しつつ、生物多様性の保全にも貢献する。また、地方分権化が推進されているなかで、環境保全を実施する上でも森林・環境分野の地方行政を担う人材の能力強化研修も必要となっている。これらのことから、GGF/UGGF及び森林行政機関による4指定林の森林管理を目的とした本プロジェクトは、ターゲットグループのニーズと整合性を持つといえる。

対象地の選定

ブルキナファソでは、サヘル地域に属する国土の北部では深刻な砂漠化が進んでおり、比較的森林資源が豊かであった南部においても、森林の劣化あるいは消失が著しい。現在、豊かな森林として残存するのはほぼ指定林のみであり、貴重な森林資源として保全の重要性が増している。本プロジェクトは対象地を4指定林としており、妥当性が高いといえる。

4-2 有効性

本プロジェクトでは、プロジェクト目標を達成することが明確であり、かつそのための各アウトプットの貢献も効果的であったと判断される。このことから、有効性は「高い」と考えられる。

プロジェクト目標の達成度

対象4 指定林に対し、PAFに基づき、GGF/UGGFを通じた参加型の森林管理活動が着実に実施されると推測され、プロジェクト目標の達成は十分に期待できる。

「アウトプット」達成による「プロジェクト目標」達成への貢献度

これまでのアウトプット1~5の進捗は、上述したプロジェクト目標の達成に十分に貢献していると判断されるが、特にアウトプット4の主要課題であるPAG策定が完了し、承認手続きが進めばプロジェクト目標の達成度合いはより確実なものになると期待できる。

4-3 効率性

投入の実績状況及び投入により生み出される成果の程度の観点からみると、効率性は「やや高い」と考えられる。

他機関との連携

「参加型自然資源管理支援計画 (Le Projet d'Appui à la Gestion Participative des ressources naturelles dans la Région des Hauts-Bassins : PAGREN⁹)」は本プロジェクトとの類似性が高く、PAGRENのブルキナファソ側リーダー及びプロジェクト対象地であるDREDDオーバッサン州局長は本プロジェクトのJCCにオブザーバーとして参加し、様々な助言を行ってきた。2011年12月にUGGF執行部が組織能力向上研修でPAGRENプロジェクトを訪問し、活発な意見交換が行われた。

活動モニタリングのためのモニター起用

2008年4月以降、新規GGFの設置が進んだ結果、GGFの活動のモニタリングをプロジェクトチームだけで行うのは困難になり、2008年11月より対象4 指定林に対し地域住民から6名を活動モニターとして雇用した。2012年12月の時点では、さらに1名増え、7名のモニターが月2回のモニタリングを行っている。毎月開催されるモニター会合においてGGFの活動進捗など、情報共有を行った。その結果、プロジェクトチームはGGFの変化などの情報を得やすくなった。プロジェクト終了後までに、上述のモニターによるモニタリング活動をUGGF執行部が引き継ぐことが合意された。

C/P 予算の執行の遅延

ブルキナファソ側のC/P予算の減額及び執行の大幅な遅れは、プロジェクト遂行の阻害要因となった。日本側の投入については、第2回JCCの後に森林行政機関との一層の連携強化を図る目的で予算が上向きに見直され、アウトプット達成のためにC/P用の日当などを日本側が負担することとなった。

⁹<http://www.lux-development.lu/>

また、2011年3月から7月にかけて、治安悪化のため日本人専門家の国外退去や自宅待機が生じた。そのため、計画とおりの投入が困難であった。

4-4 インパクト

プロジェクトが想定していなかった複数の正のインパクトが認められており、3年から5年後に上位目標が達成される可能性は「やや高い」と判断できる。

正のインパクト

- ・ GGF の収入向上

内部調査報告書及びGGFへのインタビューによると、4指定林においてGGFの収入向上と生活向上が認められている。GGFがプロジェクト活動を継続して実施することにより、その効果が将来にわたって発現するものと期待される。

- ・ プロジェクト活動の波及効果

本プロジェクトの活動が他の非政府組織 (Non-Governmental Organizations : NGO) (SOS Sahel¹⁰) に認知され始めており、そうした団体が GGF/UGGF を活用して森林管理活動プロジェクトを実施する可能性が確認されている。

内部調査報告書によると、対象4指定林のGGF非会員及びプロジェクト対象外の周辺村落住民がGGFの活動に興味を持ち始めているという。指定林が現GGF会員により管理されるだけでなく、指定林周辺の住民とともに管理されるようになれば、まさにそれは住民による森林管理計画であるといえる。

- ・ 森林官とGGF/UGGFの関係改善

GGF/UGGFと森林官の関係が改善された結果、現在、両者は継続的かつ率直なコミュニケーションを行った。これにより、森林管理活動の実施が円滑になった。

- ・ GGF/UGGFの意識の変化

プロジェクトによる研修を受講した結果、GGFは森林の重要性を改めて認識し、森林管理活動を計画的に実施することにより、継続的に木材・非木材林産物を確保できた。そして、それらを販売することにより、安定的な現金収入を得られるようになった。また、研修を通じて、製品の品質向上のための知識を学び、その改良に努めた。結果として、自分の製品に自信を持ち、販売に対して喜びを感じるようになった。

- ・ GGF内の連帯感の強化

森林管理をする過程において、地元住民は個人でできることの限界を感じ、GGF/UGGFとして活動する重要性を認識するようになった。また、地元住民は森林整備だけでなく、木材・非木材林産物の販売、諸主体とのパートナーシップの開発により、組織として活動することの利点を意識するようになった。

¹⁰<http://sossahel.org/>

プロジェクトにより研修を受けた GGF 会員が、新たに加わった GGF 会員に対して技術移転を行っていることにより、GGF 間の技術移転の持続性は確保されると期待できる。

負のインパクト

特になし

上位目標の達成度

PAG 策定は最終段階にあり、その承認プロセスも進行中である。上述のとおり、正のインパクトが多数発現しており、地域住民が継続的に森林管理活動を実践するための環境も整いつつある。GGF と森林官との関係が改善され、収入向上により活動へ意欲的・積極的に参加し、そして製品生産の楽しさや喜びを感じるようになったことにより、3 年から 5 年後に上位目標が達成される可能性は比較的高いと判断できる。

一部の UGGF が木材・非木材林産物の販売において、UGGF を窓口とする販売の仕組みを施行し、それが機能し始めている。今後は UGGF が中心となって、地域の民間企業と良好な関係を継続的に保ちつつ、木材・非木材林産物の販売戦略を確立することを視野に入れる必要がある。

4-5 自立発展性

自立発展性は以下の観点から「中程度」と考えられる。

政策・制度的側面

ブルキナファソでは砂漠化、森林減少が課題であるため、PAG の規定に基づいて GGF/UGGF が指定林管理を行うというブルキナファソ政府の基本政策は今後も継続されると考えられる。

ブルキナファソ森林法第 39 条には、「森林管理は森林整備事業計画の規定に基づいて行われる」ということが明確に記されている。国のレベルでは、ブルキナファソ内の 64 指定林における PAG 策定の動きが MEDD により促進されている。本プロジェクトにより策定された PAG が、他の指定林の PAG 策定のモデルとなることが期待される。懸念事項として、ブルキナファソの予算不足により PAG が策定されている指定林はブルキナファソ政府の承認・未承認を問わずごく僅かであることが挙げられる。

『森林法』第 39 条

森林管理は、森林整備事業計画の規定に基づき、実施される。森林整備事業計画は、森林当局及びその監督下で策定される。森林整備事業計画は、国有林の場合は森林担当省令により承認される。地方公共団体有林の場合、地方公共団体の管轄機関の条例により承認される

組織的側面

住民参加型森林管理を継続的に実施するためには、GGF/UGGF の経済基盤の確立が最も重要であり、そのためには GGF/UGGF の財政管理を含む組織運営能力の定着が必須となる。プロジェクト開始時より、GGF/UGGF の能力向上研修を繰り返し実施してきたが、能力の定着には各 GGF/UGGF で依然ばらつきがあり、能力が確実に定着するまでには時間を要することが予想される。

森林官は、約 2 年から 3 年毎に人事異動が行われる。GGF の活動や参加型指定林管理を理解し

ている森林官が新たに赴任をしてくる場合は特に問題はないが、そうでない場合は今後の GGF/UGGF と森林行政機関との連携や協力関係の継続には更なるコミュニケーションが必要となる。なお、「4-3 効率性」に記述した GGF の活動モニタリングは、プロジェクト終了後はプロジェクトが雇用した 7 名の活動モニターから UGGF に引き継ぐことが合意されており、GGF 活動の継続性のために、今後 UGGF の役割がさらに重要となる。また、GGF/UGGF 自身が、プロジェクト期間中に構築された民間企業・団体との関係を良好に維持していく努力を続けていく必要がある。

財政的側面

ブルキナファソ側負担の C/P 予算執行の遅れや州局及び県局に対する国の事業予算が極めて不足していることを勘案すると、プロジェクト終了後に必要な予算を確保する見通しは極めて厳しい。GGF に関しては、木材・非木材林産物を利用した収入創出活動が今後も安定的に継続し、その収入管理を行うことが可能となれば、財政面では一定の自立性を持つ可能性はあるといえる。国の予算措置に依存するより、GGF/UGGF 自体が資金運営する仕組みを構築する方が現実的である。プロジェクト終了時までには、各 UGGF が森林整備基金を活用して森林官の森林管理活動に必要な経費も捻出することが可能になれば、森林官は引き続き GGF 活動のモニタリングなどの森林管理活動を実施することが可能になる。森林管理活動を効果的かつ持続的に実施していくためには、GGF/UGGF の森林管理活動に必要な車両や資機材の整備が望ましい。

また、内部調査報告書により、2011 年 12 月末時点での全 GGF の現有資産残高を確認することができた。ほとんどの GGF が森林管理活動を行いながらも、100,000FCFA 以上の資産を保有していることが確認できる。今後、木材・非木材林産物の販売により得られた収入を GGF 会員への配分や消耗品及び原料の購入に充当するだけでなく、一部を特別口座に納め、GGF の再投資資金にあてることが可能であり、そのためのキャッシュフローを確立していくことが GGF 自立の第一歩である。

技術的側面

第 3 年次以降、研修で習得したことを既に実践に移している GGF もいる。このような技術を習得したいがために、GGF 会員になる住民もでてきている。こうしたことから、GGF 内における技術や成果物の活用・普及の可能性は十分にある。しかしながら、各技術が完全に GGF に定着するまでには時間を要すると思われる。プロジェクト残存期間で、GGF に少しでも技術が定着するよう、活動の継続的なモニタリング・評価が必要である。また、技術の定着化のための再活性化研修の実施も有効であると思われる。

第5章 結論

評価5項目に関し、妥当性、有効性は満足のいくレベルのものであった。また効率性については、政情悪化に伴う本邦専門家一時国外退避やブルキナファソ側予算の執行の遅れへの対応がプロジェクト活動の進捗に多少の影響をもたらしていたものの、その他の部分で最大限の工夫・努力がなされており満足のいくレベルにある。自立発展性については、組織的側面、財政的側面及び技術的側面のいずれの面からも、不十分な点が見られ、UGGF/GGF及びブルキナファソ DiFor関係者のより一層の努力が必要である。インパクトについては、すでに対象指定林の現場レベルでは多くのインパクトが発現しているが、対象指定林以外への波及やブルキナファソの政策への反映、プロジェクトに参加していない森林官などへの知識普及などのインパクトの発現までは発生しておらず、さらなる工夫が必要である。

については、政情悪化に伴う活動停滞期間を考慮し、成果4に関連した活動の完了と自立発展性を確保するために、6カ月程度のプロジェクト期間の延長が必要である。

第6章 提言

協力期間の延長

政情不安による治安悪化及び、それに伴う本邦専門家の一時退避による不在期間の発生により、邦人専門家が5カ月程度、一時的に退避した。それにより、当初のプロジェクト協力期間では特に成果4に関連した活動が実現困難な状態である。そのため、プロジェクト実施期間の延長が、プロジェクト成果の達成のために必要である。

PAGの承認及び活用

本プロジェクトで策定する対象4指定林のPAGでは、「自然資源を活用して住民の雇用創出と収入の安定化を図りつつ、持続的に森林の保全・管理を目指す」というブルキナファソの森林政策で掲げるビジョンを統合し、その実践方法も明確にしている。PAGの策定方法や実践から得られた教訓は、ブルキナファソ国内の他の指定林でも活用可能なものである。しかし、今後、国家として活用していくためには、策定したPAGを国レベルでしっかり承認し、その教訓や内容を関係者で正式に共有できる仕組みを残しておくことが必要である。このため、プロジェクト終了までに、県・州レベルの承認を得ることが重要である。

マニュアル及びガイドの有効活用

本プロジェクトでは、諸主体向けの森林整備方法論ガイド、諸主体向けの各種個別技術の参加型持続的森林管理実践マニュアルが作成されている。これは、プロジェクト対象地域以外にも大変有用なものであるため、残りの協力期間でブルキナファソに適した内容のものを確実に完成させると同時に、国立水森林学校（Ecole Nationale des Eaux et Forêts : ENEF）での講義資料に指定するなどのマニュアルの確実な有効活用方策を決めておくことでさらなるインパクトにつながるることができる。

4指定林のUGGFの能力強化

GGF間の活動を調整し、技術部署や生産物の卸先を含め、他の外部機関との渉外を行うUGGFの役割は今後さらに重要となる。プロジェクト期間中は、日本人専門家やプロジェクトスタッフが相当程度、この役割を果たしてきたが、プロジェクトの残存期間中に、UGGFがその役割を担える状況になるように確実にUGGFの能力強化を完了することが必要である。

成果の共有とセミナーの開催

プロジェクト終了までに、GGF/UGGFを通じた持続的森林保全活動に関する実践経験を知識として整理し、プロジェクト関係者のみならず、DiFor職員、森林官に加え、住民参加型の指定林保全活動に対する支援を期待できるドナーやNGO関係者などと共有するためのセミナーなどの場を設定すべきである。

プロジェクト関係者への終了時評価結果の共有

2012年3月に予定されている直近のJCCで、評価結果を関係者で共有し、本評価結果をもとにプロジェクトの延長について話し合うことが必要である。

第7章 教訓

プロジェクトの戦略の共有

本プロジェクトでは、「自然資源を活用して住民の雇用創出と収入の安定化を図りつつ、持続的に森林の保全・管理を目指す」というブルキナファソの森林政策で掲げられているビジョンを、対象4指定林で実践し、その結果を新たに策定するPAFに反映させることをプロジェクトの戦略として実施してきた。一方、ブルキナファソ国内には64の指定林があり、本プロジェクトで得られるPAFの策定方法やその活動の実践から得られた教訓は、ブルキナファソ国内の他の指定林でも活用されることを期待し、そのための成功モデルの提示を目指したものである。このような技術協力プロジェクトの戦略、その方向性をプロジェクト開始当初に両国間で明確に共有しておくことが、その後の円滑な協力の実施や細かな点での協議・合意、意思疎通、成果の発現及び自立発展性を担保するためには非常に重要である。

資機材投入の効果的活用

本プロジェクトは技術協力であり、社会インフラ整備や資機材供与に重点を置くものではないが、他ドナー国の資金援助プログラムなどと組み合わせ、相乗効果を引き出すことで、技術協力プロジェクトがより効果的かつ自立発展性の高いものとなる。